

# アクティブ・ラーニング ツアー 学習プログラムモデル



ここに掲載されているのは学習プログラムモデルです。  
子どもたちにあわせて、活動を組み替えることができます。

(例)

- ・活動Aの活動時間が45分とあるが、60分にしたい。
- ・活動B【展示室見学】ではなく、【体験活動】に変えたい など。

# 豊田市博物館 アクティブ・ラーニングツアー 学習プログラムモデル一覧

R6.3 現在

番号	学年	教科	単元名・題材名
1	小1・2	国語	したこと(見たこと)のちがいに気を付けて書く -博物館でしたこと(見たこと)について伝えよう-
2	小1・2	生活	いきものとなかよし きせつとなかよし -自然と触れ合おう-
3	小1	生活	ふゆとなかよし -博物館で昔あそびを体験しよう-
4	小2	国語	かさこじぞう -物語に出てくる蓑や笠を着たり触れたりしよう-
5	小2	生活	生きものはっけん -カイコの一生から「生命の尊さ」を考えよう-
6	小3	理科	こん虫の体の仕組みを調べよう
7	小3	社会	道具とくらしのうつりかわり -博物館で昔のくらしを体験しよう-
8	小4	国語	ごんぎつね -物語に出てくる「びく」「はりきりあみ」「火縄銃」を体験しよう-
9	小4・6	国語	4年『一つの花』、6年『ヒロシマのうた』 -生活用品などから戦時中の暮らしについて知ろう-
10	小4~6	図工	からだでかんしょう
11	小4	社会	自然災害からくらしを守る -風化花こう岩から考える地域の防災-
12	小4	社会	残したいもの 伝えたいもの -足助の町並みを歩いてみよう-
13	小4	社会	きょう土の伝統・文化と先人たち -豊田の発展につくした人 西澤眞蔵を知ろう-
14	小4・中1	総合	拳母祭り -伝統や文化の継承に力を注ぐ人々の思いを知ろう-
15	小4・中2	総合	豊田から考える環境と未来 -ごみ問題と循環型のまちづくり-
16	小4~中3	道徳	西澤眞蔵が思い描いた未来とは? -心と体で豊田を味わおう-
17	小5	国語	和の文化について調べよう
18	小5	理科	流れる水のはたらき
19	小5~中3	理科	豊田の最強生物クマムシと仲間たちをさがせ!
20	小5・中2	社会	自動車をつくる工業 -自動車産業を支える豊田の珪砂-
21	小5	社会・総合	米づくりのさかんな地域 -昔の農具で脱穀しよう-
22	小5	社会・総合	豊田から考える環境と未来 -豊田の自然を守ろう-
23	小5・中2	総合	豊田から考える環境と未来 -自然災害と森林保全-
24	小5・中2	総合	豊田から考える環境と未来 -自然災害と河川事業-
25	小6	国語	童子山の歴史を解説しよう -七州城図や樹木の街並みから歴史を探る-
26	小6	図工	この筆あと、どんな人? -美術館へ行こう-
27	小6・中1	理科	動物の分類 -動物のつくり注目して、共通点と相違点を見つけよう-
28	小6・中1	理科	豊田の地層と化石 -豊田の土地の変化を推測しよう-
29	小6・中1	理科	豊田の岩石と火山
30	小6・中1	理科	豊田の断層と地震
31	小6・中1	社会	縄文のむらから古墳のくにへ -豊田の古代人って、どんなくらし?-
32	小6・中1	社会	縄文のむらから古墳のくにへ -古墳を調査しよう-

33	小6・中2	社会	戦国の世から天下統一へ -長篠合戦図屏風と火縄銃について調べよう-
34	小6・中2	社会	戦国の世から天下統一へ -検地帳を読み解こう-
35	小6・中2	社会	人々のくらしと身分 -挙母の城下町を調べよう-
36	小6・中2	社会	人々のくらしと身分 -武家屋敷の長屋門を調べよう-
37	小6・中2	社会	開国と不平等条約 -古文書を読んでペリー来航の影響を考えよう-
38	小6・中2	社会	近代の遺構をめぐろう -矢作川のおかげで豊田の産業が発展したって、ホント?-
39	小6・中3	社会	長く続いた戦争と人々のくらし -現地と実物資料から考えよう-
40	小6	道徳	行動する建築家 坂 茂 -働くことってどんなことだろう-
41	中1	美術	美のタイムトラベル -土器の文様から当時の人々の思いを想像しよう-
42	中1	理科	植物の特徴 -植物のつくり注目して、共通点と相違点を見つけよう-
43	中1	社会・総合	探検!豊田ミステリーツアー -豊田の地域の特色や歴史を学ぼう-
44	中1~3	総合	ミュージアム チャレンジ7 -7つの謎を解き明かせ!-
45	中1~3	道徳	行動する建築家 坂 茂 -社会のために自分は何ができるか考えよう-
46	中2	国語	扇の的『平家物語』より -鎧や武器から当時の戦の様子を探ろう-
47	中2	美術	人物を見つめて -エゴン・シーレー-
48	中2	美術	日本の美意識 -高橋節郎館・茶室で美意識を学ぶ-
49	中2	理科	身近な生物の観察 -単細胞生物と多細胞生物を観察しよう-

## アクティブ・ラーニングツアーは、博物館を起点に活動します。

- 上記の学習プログラムモデルをもとに学校の要望に合わせて活動場所を広げていきます。
- 豊田市全域を博物館ととらえ、豊田の特徴や魅力を発信する人、機関、地域、団体や空間と共に「主体的、対話的で深い学び」の実現を先生方と一緒に実現していきます。

### ☆ 豊田の特徴や魅力を発信する人、機関、地域、団体や空間 ☆

豊田市美術館 豊田中央図書館 豊田市コンサートホール・能楽堂 とよた科学体験館 松平郷館  
 市内各消防署 防災学習センター 棒の手会館 各地域資料館 豊田市矢作川研究所 エコット  
 豊田市自然観察の森 トヨタの森 ものづくりサポートセンター 旭高原元気村 豊田市民芸館  
 豊田市総合野外センター 三州足助屋敷 豊田市役所の各担当課・各支所 各種団体 など  
 各農園・農場・牧場・森林・湿地・ため池・用水・地層などの見学・観察地

### プログラム例

### 29「豊田の岩石と火山」 小学6年生・中学1年生 理科

1. 豊田市の土地の様子や岩石・化石などを知る 【常設展示室】 (20分~30分)
  2. 学芸員の説明から学びを深める 【常設展示室】 (30分~40分)
  3. 矢作川の砂を分析し、新しい発見をする 【体験室】 (60分)
- < バス 移動 >
4. 地層の見学から土地のつくりを学ぶ 【自然観察地】 (90分)

※複数クラスの場合、1~4の活動をローテーションで行う

※プログラムは、学校と事前打合せを行うことで上記のようにリニューアルすることも可能

## 1 単元・題材名 「したこと（見たこと）のちがいに気を付けて書く

－博物館でしたこと（見たこと）について伝えよう－

### 2 ねらい

- ・博物館に行って、実際に体験して感じたり考えたりしたことを、おうちの人に伝える文章に書き表す。（※「見たこと」について書いてもよい。）

### 3 博物館のサポートと連携

- ・児童の疑問や質問に答える。

### 4 学習活動

- ① 人数 70人程度まで
- ② 時間 80分
- ③ 場所 博物館の各所
- ④ 学習活動

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
5分	■学習課題の確認 「体験して感じたり考えたりしたことを書こう」	・進行 ・学習課題提示	
40分	■体験をする。 ・事前に興味がある体験施設を探しておく。 ・感じたことや考えたことを書き込めるワークシートを用意しておく。 ・タブレットの使用も可能。	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真	・活動の補助
30分	■実際に体験したことを、おうちの人に伝える文章を書く。 ・1年「こんな こと したよ」を参考にワークシートを作成し、そこに書き込めるようにする。	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真	・活動の補助
5分	■振り返り ・感想や分かったことをまとめ、発表する。	・挙手の指名 ・評価	・質疑応答

### ⑤ 留意点・備考

- ・事前学習として、博物館で体験したいことを決めておく。
- ・「したこと」について書く時は、教科書教材1年「こんな こと したよ」を事前に学習しておくとうよい。
- ・「見たこと」についての学習活動も可能。その場合は、事前学習として博物館で見たいものを決めておく。
- ・「見たこと」について書く時は、教科書教材1年「えにつきを かこう」を事前に学習しておくとうよい。

## 1 単元名 「いきものとなかよし きせつとなかよし -自然と触れ合おう-」

## 2 ねらい

- ・森や池にいる虫を捕まえて体のつくりや動く様子を観察し、虫の不思議に気付くことができる。
- ・身近な自然に五感を使って触れ、季節の変化を感じるとともに、地域の自然に愛着をもつ。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・観察の道具の準備（昆虫拡大観察ケース、虫めがねなど）
- ・生き物探しのポイントの説明

## 4 学習活動

- ① 人数 70人程度まで
- ② 時間 100分
- ③ 場所 セミナールーム、観察池、どんぐりの森など
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
5分	<b>■学習課題の確認（観察池、どんぐりの森など）</b> <b>「博物館の自然と触れ合い、見つけたことを紹介しよう」</b> ・虫の見つけ方のコツを知る。 ・5つのパワー（目・耳・鼻・手・心）を使って季節を楽しむことを確認する。	・進行 ・5つのパワーの説明をする。	
40分	<b>■自然を探して触れ合おう。</b> <b>《晴天時》</b> ・観察池、どんぐりの森などで自然と触れ合う。 <b>《雨天時》</b> ・展示室のはく製や館内で飼育している生き物を観察して、ワークシートに生き物の体をかき足す活動や、色塗りをする。	・進行 ・安全管理	・野外での安全確認 ・身近な生き物の種類や季節の草花の見分け方の図示など
10分	移動・トイレ休憩		
35分	<b>■見つけた自然を紹介しよう。（セミナールーム）</b> ・見つけた植物、生き物を観察し、すごいところや気になるところをまとめる。 ・虫の動きなどを動作化する。 ・気になるところを学芸員に質問する。	・進行	・質疑応答
10分	<b>■振り返り</b> ・本時で分かったことやもっと知りたいことを発表する。 ・交流後、生き物などは元いた場所へ返す。	・進行	

## ⑤ 留意点・備考

- ・観察池は地域の自然を再現しているので、豊田市の身近な生き物に触れることができる。
- ・生活科 単元「いきもの はっけん②」で、さらに詳しい生き物の体を見る活動を行うことができる。
- ・質疑応答では、自分の飼っている生き物や興味のある生き物に関することも可能。
- ・学習用タブレットを使って、生き物の様子をまとめることも可能（発表ノートなど）。

## 1 単元名 「ふゆとなかよし - 博物館で昔あそびを体験しよう -」

## 2 ねらい

- ・昔遊びを知りたい、上手になりたいという思いをふくらませ、願いに向かって遊びを表現したり、みんなで楽しく遊んだりすることができる。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・昔遊びの仕方を教える。
- ・昔遊びに必要な道具の貸出。



## 4 学習活動

- ① 人数 70人程度まで
- ② 時間 90分
- ③ 場所 むかしの家、むかしの家の庭など
- ④ 学習活動

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	<b>■学習課題の確認</b> 「昔遊びをやってみよう」 ・昔の小学校の様子を知る。 （給食・校舎・机やいす・遊具） ・昔遊びの仕方を知る。	・進行	・昔の学校の説明 ・昔遊びを紹介 ・諸注意
30分 活動A	<b>■昔遊びに挑戦してみよう①（むかしの家）</b> けん玉、おはじき、あやとり、お手玉など	・児童への支援	・昔遊びの補助 ・途中で児童同士を競わせたり、上手な児童を紹介したりする。
10分	休憩・移動	・引率	
30分 活動B	<b>■昔遊びに挑戦してみよう②（むかしの家の庭）</b> 缶けり、石けり、風車、こま、など	・児童への支援	
10分	<b>■振り返り</b> ・昔遊びをして気付いたことを発表する。	・進行	

## ⑤ 留意点・備考

- ・屋内で遊ぶ人と屋外で遊ぶ人を途中で入れ替える。
- ・観察池、どんぐりの森周辺での観察などと組み合わせて実施することも可能。



# 1 単元・題材名 「かさこじぞう -物語に出てくる蓑や笠を着たり触れたりしよう-」

## 2 ねらい

- ・「かさこじぞう」を通読し、昔話特有の表現などに着目して、おもしろかったところを伝え合う。
- ・いろいろな昔話を読んで、おもしろいと思うところをカードにかいて紹介する。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・物語に出てくる蓑や笠などを実際に着たり、触れたりする体験の支援
- ・むかしの家（旧平岩家住宅）や藤岡地区の旧山内家住宅を見学して、囲炉裏や土間、座敷などの古民家のつくりから、昔のくらしや物語の世界を体感する支援

## 4 学習活動

- ① 人数 40人程度まで
- ② 時間 50分
- ③ 場所 セミナールーム、むかしの家
- ④ 学習活動

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
5分	■学習課題の確認 「じいさま、ばあさまの生活を体験しよう」	・学習課題の提示	
20分	■古民家のつくりから、昔のくらしを体験する。 ・囲炉裏や土間、座敷など今の家との違いを見つける。 ・蓑や笠などを実際に着たり、触れたりする。	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真 ・挙手の指名	・むかしの家や道具に関する説明
20分	■おじぞうさんにかかわる文化や歴史を知る。 ・豊田市内のおじぞうさんの写真から、どんなところにあるのか探る。 ・おじぞうさんを祀っている方の話を聞く。	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真	・文化や歴史に関する説明
5分	■振り返り ・感想や分かったことをまとめ、発表する。	・挙手の指名 ・評価	・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・「かさこじぞう」を読んで、物語について想像をふくらませる。
- ・事前学習として、タブレットで江戸時代の人々の生活についての映像を見て、当時のくらしについてのイメージをもっておく。



# 1 単元・題材名 「生きものはっけん -カイコの一生から「生命の尊さ」を考えよう-」

## 2 ねらい

- ・市内各地で飼育されていたカイコの育て方を知り、実際に育てることで生命の尊さを学ぶ。
- ・カイコが生まれてから一生を終えるまでを学び、人間がその命をいただいて生糸（絹糸）を作り生活してきた歴史があることを知る。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・カイコの斡旋（時期による）
- ・カイコを見たり触ったりする体験の支援

## 4 学習活動

- ① 人数 70人程度まで
- ② 時間 90分
- ③ 場所 セミナールーム、展示室
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■学習課題の確認 「カイコはどのようにまゆになるのかな」	・進行	
25分 活動A	■カイコはどのようにまゆになるまでの様子を学ぶ。 ・わらべ歌を一緒に歌う （自動車のまちとよたはかつて、養蚕・製糸の街だった） ・絹製品と綿製品を比べる ・パワーポイントでカイコの一生を学ぶ （実際にカイコがいる場合は、実物を観察することも可能）	・進行 ・個への支援 ・挙手の指名 ・児童の監督	・絹製品、綿製品の準備 ・学芸員による解説
10分	移動・休憩		
25分 活動B	■展示室で、カイコに関わる産業について、調べる。	・児童の監督	・調べ学習の助言
10分	移動		
10分	■振り返り ・感想や疑問点を発表する。	・進行 ・評価	・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・博物館の展示を見て、養蚕で栄えた挙母が、車の町になっていく様子を学ぶことができる。
- ・カイコの飼育の助言や、繭の購入などに関する支援を行うことができる。繭を購入して繭工作をつくることも可能。（「干支まゆ人形」など）
- ・カイコの一生から生命の尊さを学ぶ道徳の授業にも応用できる。
- ・生活科「あきとなかよし」の単元で、綿繰り機で綿と種に分ける体験も合わせて学習可能。



### 1 単元・題材名 「こん虫の体の仕組みを調べよう」

### 2 ねらい

- ・標本を観察しながら、実際の昆虫の体の仕組みを学習する。
- ・実体験を通して、身近な自然への興味・関心を深める。

### 3 博物館のサポートと連携

- ・観察用標本（樹脂封入標本など）の活用
- ・学習内容に関する解説

### 4 学習活動

- ① 人数 40人程度まで
- ② 時間 45分
- ③ 場所 セミナールーム、体験室
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
5分	<b>■学習課題の確認</b> 「こん虫の体はどんなつくりになっているのかな」	・進行	
30分	<b>■標本の観察</b> ・トンボ、バッタなど。 <b>■比較しながら観察をして、特徴を調べる</b> ・こん虫は足の数が決まっている。 ・あたま、むね、はらの分かれ方が、種類によって少しずつ違う。 ・細かい体の仕組みが分かった。	・個への支援 ・挙手の指名 ・児童生徒の監督 ・記録写真	・各班への支援 ・博物館学習スタッフによる解説 ・個別に質疑応答
10分	<b>■振り返り</b> ・感想や疑問点を発表する。	・挙手の指名 ・評価	・質疑応答

### ⑤ 留意点・備考

- ・右の写真は樹脂標本の例である。昆虫が苦手な児童でも、手にとって体の裏側の構造を観察することができる。
- ・樹脂標本の種類は指定できない。
- ・異なる種類を観察することで、昆虫同士で共通していること、口や羽根のつくりなど、種類で異なる部分を比較することができる。
- ・樹脂標本に対応したワークシートとあわせて貸出が可能。



## 1 単元・題材名 「道具とくらしのうつりかわり - 博物館で昔のくらしを体験しよう -」

### 2 ねらい

- ・古い道具を使う体験を通して、昔の人々のくらしの工夫や苦勞を考える。
- ・現代の道具や家屋との違いを見つけ、今と昔のくらしの違いを考える。
- ・昔と今の生活道具を比べて、生活の変化について考える。

### 3 博物館のサポートと連携

- ・むかしの家（旧平岩家住宅）で、古民家のつくりや昔のくらしについての説明と案内
- ・古い道具（民具）の使い方の説明や体験の支援

### 4 学習活動

- ① 人数 120人程度まで
- ② 時間 45分（各活動）
- ③ 場所 むかしの家、体験室、むかしの家の庭
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■ 始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・進行	・注意事項
45分 活動A	■ 昔の道具を調べよう。（むかしの家） ・今の家と古民家の違いを探そう。 ・古い道具を体験しよう。 （台唐、いずみ、箱膳等）	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・昔の道具に関する着目する視点の提示と説明
15分	移動・休憩		
45分 活動B	■ 道具を体験しよう1（むかしの家の庭） ・山かご、背負子、もっこなどを体験する。 ・石臼、薬研、鯉節削り器を使う。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・昔の道具の使い方の説明
50分	移動・昼食		
45分 活動C	■ 道具を体験しよう2（体験室） ・洗濯の道具の移り変わりを調べよう。 ・洗濯板とたらいを使って洗濯をしよう。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・昔の道具の使い方の説明
10分	■ 終わりの会（セミナールーム） ・児童の感想、博物館学習スタッフの話	・集合、整列指示 ・評価	・質疑応答

### ⑤ 留意点・備考

- ・学級数に応じて、活動A、B、Cをローテーションして実施する。
- ・各地域の資料館で民具の展示を見学しながら、古い道具の体験学習を実施することもできる。
- ・昔の消防に使った道具の学習も可能（教材貸出も可）。

#### むかしの家（旧平岩家住宅）の概要

江戸時代に松平地区（豊田市豊松町）に建てられた古民家を博物館に移築したもの。



# 1 単元・題材名 「ごんぎつね -物語に出てくる「びく」「はりきりあみ」「火縄銃」を体験しよう-

## 2 ねらい

- ・「ごんぎつね」に出てくる道具を体験しながら本文を読む活動を通して、ごんや兵十の気持ちにせまる。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・物語に出てくる「びく」「はりきりあみ」「火縄銃」などの使用
- ・むかしの家（旧平岩家住宅）や藤岡地区の旧山内家住宅を見学して、囲炉裏や土間、座敷などの古民家のつくりから、昔のくらしや物語の世界を体感

## 4 学習活動

- ① 人数 40人程度まで
- ② 時間 45分
- ③ 場所 セミナールーム、むかしの家
- ④ 学習活動

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 兵十とごんが直接出会っている場面を確認する。 (はりきりあみ・火縄銃を使ったときの2回)</li> <li>■ 学習課題の確認 「はりきりあみが使われた場面の兵十のごんへの思いを考えよう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進行</li> <li>・ 学習課題の提示</li> </ul>	
35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ はりきりあみの設置や魚を追い込む体験をし、ごんにうなぎを取られた兵十の気持ちを考える。</li> <li>・ 川が増水したときに使って、魚を取っていたことに着目して考える。</li> <li>・ だれのために、何の目的でうなぎを取ろうとしているのかにも着目して考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の監督</li> <li>・ 個への支援</li> <li>・ 記録写真</li> <li>・ 拳手の指名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道具に関する説明</li> </ul>
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 振り返り</li> <li>・ 感想や分かったことをまとめ、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拳手の指名</li> <li>・ 評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質疑応答</li> </ul>

## ⑤ 留意点・備考

- ・ 「ごんぎつね」を読んで、物語について想像をふくらませる。
- ・ 事前学習で、タブレットで江戸から明治時代の人々の生活についての映像を見て、当時のくらしについてのイメージをもっておく。
- ・ 「火縄銃」の学習も可能。

びくも  
置いてみよう



## 1 単元・題材名 「4年『一つの花』、6年『ヒロシマのうた』

-生活用品などから戦時中の暮らしについて知ろう-

## 2 ねらい

- ・戦時中の生活の大変さについて知ること、物語の登場人物たちの気持ちをより深く考える。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・戦時中の暮らしや食料事情についての説明、生活用品などの使い方の解説

## 4 学習活動

- ① 人数 40人程度まで
- ② 時間 45分
- ③ 場所 セミナールーム
- ④ 学習活動

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
5分	<b>■学習課題の確認</b> 「戦時中の暮らしの大変さを知って、登場人物たちの気持ちを考えよう」	・進行 ・学習課題の提示	
20分	<b>■生活用品や食料事情から分かる当時の人々の暮らしぶりを探る。</b> ・衣食住、学校生活、仕事など ・兵士の思いについて 「B29の里」「草薙隊之碑」など	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真	・生活用品の使い方の解説 ・市内の戦争遺跡についての解説
15分	<b>■映像資料や写真パネルで戦争の様子を知り、登場人物たちの気持ちについて考え発表する。</b> ・集団疎開、学徒出陣、物資の配給など	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真 ・拳手の氏名	・戦時中の説明
5分	<b>■振り返り</b> ・感想や分かったことをまとめ、発表する	・拳手の指名 ・評価	・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・事前学習として、ワークシート（戦時中の暮らしを調べよう）で興味・関心をもたせておく。
- ・登場人物たちの気持ちにせまらせるために、実際に体験をする前と後での考えの変化を書けるようなワークシートを用意しておく。



## 1 題材名 「からだでかんしょう」

## 2 ねらい

- ・作品に表された人物のポーズや表情、作中のさまざまな形象に注目し、身体を使ってまねしながら感じたことや気付いたことを伝え合ったりすることで、作品を深く鑑賞するとともに、見方や考え方を広げる。
- ・美術館へ行き、実物の美術作品を観るよさを味わう。

## 3 美術館のサポートと連携

- ・展示されている人物画／人物像（グスタフ・クリムトやエゴン・シーレなど）での対話型鑑賞
- ・必要に応じてコレクションを中心とした自由見学（ボランティアによるガイド付き）
- ・豊田市美術館見学案内

## 4 学習活動

- ① 人数 100人程度まで  
(おおむね15人1チーム)
- ② 時間 80分
- ③ 場所 常設展示室
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	美術館学習スタッフ
15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事前指導（見学の注意事項）</li> <li>■ 学習課題の確認</li> </ul> 「対象となる作品のポーズに注目。人物の身体はどんな態勢か、どんな色や技法が使われているか、見てみましょう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整列指示</li> <li>・ 進行</li> <li>・ 学習課題提示</li> <li>・ 挙手の指名</li> <li>・ 移動指示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術館紹介、解説</li> <li>・ 注意事項</li> </ul>
30分 活動A	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対象作品を鑑賞し合う。</li> </ul> ・実際に作品の前でポーズをとってみる。 ・身体のバランスや目線などを確かめる。 ・見学前の印象と実物作品を目にした時との違いに着目し、見つけたことをワークシートに書きこみ、伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の監督</li> <li>・ 挙手の指名</li> <li>・ 安全指導</li> <li>・ 記録写真</li> <li>・ 移動指示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誘導</li> <li>・ 対話型鑑賞</li> </ul>
25分 活動B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ そのとき展示されている人物画や人物像（グスタフ・クリムト、エゴン・シーレ、オスカー・ココシュカ、アルベルト・ジャコメッティ、岸田劉生など）を自由に鑑賞する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明</li> <li>・ 個別に解説</li> </ul>
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 振り返り（質問、感想など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進行</li> <li>・ 挙手の指名</li> <li>・ 評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質疑応答</li> </ul>

## ⑤ 留意点・備考

- ・ 児童数によって班に分かれて学習をすすめる。  
人数が多い場合はAM/PMで博物館と入れ替えて対応を検討。
- ・ 事前に美術館と相談して対象作品を選ぶ。可能であれば事前に学習用タブレットで画像を見て、美術館で本物を観て確かめたいという気持ちを高める。
- ・ 事前指導で作品ガイドボランティアの派遣も可能。
- ・ 注意事項（走らない・大声で話さない・美術品には触らない等）を守って見学するように、指示を徹底する。
- ・ 事後に、ポーズや身体の部位の表現を工夫するように学びを生かす。

## 1 単元・題材 「自然災害からくらしを守る - 風化花こう岩から考える地域の防災 -」

### 2 ねらい

- ・昭和47年7月豪雨における小原地区・藤岡地区の被害規模と地質との関連について、風化花こう岩に着目しながら追究し、小原地区・藤岡地区で大きな被害が出た要因について理解する。
- ・豊田市で発生した災害の様子を調べ、豊田市における災害の特徴について理解を深める。

### 3 博物館のサポートと連携

- ・実物資料（風化花こう岩）の準備と解説
- ・展示室での解説



### 4 学習活動

- ① 人数 80人程度まで
- ② 時間 50分（各活動）
- ③ 場所 セミナールーム、展示室
- ④ 学習活動

時間	学 習 内 容	先 生	博物館学習スタッフ
10分	<b>■ 始めの会（セミナールーム）</b> ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・整列指示 ・進行 ・移動指示	・注意事項
50分 活動A	<b>■ 昭和47年豪雨で、豊田市北部の被害が大きかった理由を考えよう。（セミナールーム）</b> ・風化花こう岩を観察したり、触ったりして見つけたこと、気付いたことを共有する。 ・災害の大きさと花こう岩との関連を考える。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・パワーポイントを活用した活動 ・地質に関する説明
15分	移動・休憩		
50分 活動B	<b>■ 展示室で豊田の災害に関わるできごとを探そう。（展示室）</b> ・展示室で調査活動を行い、見つけたこと、気付いたことを共有する。 ・豊田の災害に関する説明を聞く。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・災害に関する展示の見る視点を提示。
10分	<b>■ 終わりの会（セミナールーム）</b> ・児童の感想、博物館学習スタッフの話	・集合、整列指示 ・評価	・質疑応答

### ⑤ 留意点・備考

- ・学級数に応じて、活動A、Bをローテーションして実施する。

# 1 単元・題材名 「残したいもの 伝えたいもの -足助の町並みを歩いてみよう-」

## 2 ねらい

- ・旧街道沿いの古い町並みや建物の見学から、昔の人々の暮らしについて学ぶ。
- ・足助の町並み保存の説明から、地元の人々の願いに気付き、関心を高める。
- ・古い町並みが現在も残っている理由を考える。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・旧街道沿いの案内と見学地の説明
- ・足助の町並み保存の取組の様子の説明



## 4 学習活動

- ① 人数 60人程度まで
- ② 時間 120分
- ③ 場所 足助の町並み

(足助交流館、常夜燈、マンリン小路、馬頭観音、玉田屋、道標、旧鈴木家住宅、旧田口家住宅、足助中馬館など)

### ④ 学習活動

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	<b>■ 始めの会 (足助交流館)</b> ・ 見学、体験の注意事項 ・ 学習課題の確認 「足助の古い町並みは、どのように守られているのかな？」	・ 進行 ・ 安全指導	・ 注意事項
20分 活動A	<b>■ 足助の町並みについて知ろう。</b> ・ 足助の町並みの概要について学ぶ。	・ 児童の監督	・ 町並みの説明 ・ 備品の準備等
40分 活動B	<b>■ 足助の町並みを見学しよう1</b> ・ 旧鈴木家住宅の見学 修理・保存や大工道具の説明を聞く。 ・ マンリン小路の見学 家のつくりについて調べる。	・ 児童の監督 ・ トイレ休憩確認 ・ 誘導補助 ・ 安全指導	・ 旧街道沿いに案内 ・ 町並み保存についての解説
40分 活動C	<b>■ 足助の町並みを見学しよう2</b> ・ 旧田口家住宅の見学 萬屋の頃の様子などについて調べる。 ・ 足助中馬館の見学 足助の町並みが保存された経緯の説明を聞く。	・ 児童の監督 ・ トイレ休憩確認 ・ 誘導補助 ・ 安全指導	・ 旧街道沿いに案内 ・ 古い道具を紹介 ・ 町並み保存についての解説
10分	<b>■ 終わりの会 (足助交流館)</b> ・ 児童の感想、博物館学習スタッフの話	・ 集合、整列指示 ・ 評価	・ 質疑応答

### ⑤ 留意点・備考

- ・安全指導とともに、天候や子どもの体調を考慮し、見学コースや滞在時間を考える。
- ・低学年向けのスタンプラリーをはじめ各種プログラムがあり、学年に応じた対応ができる。
- ・町並みにある「常夜灯」「馬頭観音」「玉田屋」「道標」等の見学も可能。
- ・日程調整をしたうえで、三州足助屋敷の見学とセットで実施することも可能（要相談）。

## 1 単元・題材名 「きょう土の伝統・文化と先人たち - 豊田の発展につくした人 西澤真蔵を知ろう -」

## 2 ねらい

- ・地域の発展に尽くした先人（西澤真蔵）のはたらきや、そのはたらきや苦心によって地域の人々の生活が向上したことを学ぶ。
- ・先人の努力によって発展してきた地域に誇りや愛着をもつ。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・展示室や枝下用水見学のご案内と解説

## 4 学習活動

- ① 人数 120人程度まで
- ② 時間 40分（各活動）
- ③ 場所 展示室、むかしの家の庭、枝下用水
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■ 始めの会（セミナールーム） ・ 講師の紹介、学習課題の確認	・ 進行	
40分 活動 A	■ 西澤真蔵について展示室で調べよう。（展示室） ・ 枝下用水に関する展示を調べる。 ・ ジオラマで枝下用水を探して、工事の様子を調べる。など ・ 枝下用水に関する説明を聞く。	・ 個への支援 ・ 拳手の指名 ・ 児童の監督	・ 展示説明と解説
10分	移動・休憩		
40分 活動 B	■ 枝下用水の工事で使った道具を体験しよう。（むかしの家の庭） ・ 当時使っていた道具と同じような道具を実際に観察したり、持ったりして体験する。 ・ もっこでの運搬を体験する。など	・ 個への支援 ・ 児童の監督	・ 現地案内と解説
10分	移動・休憩		
40分 活動 C	■ 枝下用水を見学しよう。（枝下用水） ・ 博物館の近くを流れる枝下用水を見学する。	・ 個への支援 ・ 児童の監督	・ 現地案内と解説
10分	移動		
10分	■ 終わりの会（セミナールーム） ・ 児童の感想、博物館学習スタッフの話	・ 拳手の指名 ・ 評価	・ 質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・ 学級数に応じて、活動 A、B、C をローテーションして実施する。
- ・ 雨天時は、活動 B をセミナールームなどで実施する。



# 1 単元・題材名 「拳母祭り – 伝統や文化の継承に力を注ぐ人々の思いを知ろう –」

## 2 ねらい

- ・古くから伝わる祭りや郷土芸能を調べることを通して、伝統や文化の継承に尽力する人々の苦労や願いについて考える。
- ・地域の伝統や文化を次世代につなぐために、地域と協働しながら自分にできることに取り組もうとする。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・展示資料の案内や現地説明

## 4 学習活動

- ① 人数 100人程度まで
- ② 時間 40分（各活動）
- ③ 場所 展示室、まちかど展示館
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■学習の見直しをもつ。(セミナールーム) 「豊田にも、古くから伝わるものがあるのかな？」	・進行	
40分 活動 A	■展示を見て、豊田市の伝統文化について調べよう。(展示室) ・ジオラマで、拳母祭りや棒の手、農村歌舞伎を見つける。	・進行 ・記録写真 ・個への支援 ・拳手の指名	・展示物の解説 ・質疑応答
15分	移動<徒歩>		
40分 活動 B	■拳母祭りを通して豊田市の伝統文化について調べよう。(まちかど展示館) ・拳母祭りの山車関係資料を見学する。 ・地元の民具資料などを見学する。 ・拳母祭りに携わる方々から、伝統や文化の継承にまつわる思いを聞く。 ・疑問点や感想を発表する。	・進行 ・記録写真 ・個への支援 ・拳手の指名	・展示物の解説 ・伝統や文化の継承に携わる方々による講話 ・質疑応答
15分	移動<徒歩>		
30分	■学習のまとめ(セミナールーム) ・見学して分かったことや、伝統文化に携わる人々の思いについて考えたことをワークシートにまとめる。	・進行	

## ⑤ 留意点・備考

- ・事前学習として、学区の伝統や文化について調べておくことで、自分たちの地域と他の地域とを比較して考えることができる。
- ・学級数に応じて、活動 A、B をローテーションして実施する。
- ・博物館の「セミナールーム」や「えんにち空間」を学習の成果を発表する場として使用することができる。

## 1 単元・題材名 「豊田から考える環境と未来 -ごみ問題と循環型のまちづくり-」

## 2 ねらい

- ・豊田が抱えるごみ問題に着目し、その背景にある人々の生活の変化やごみ処理の取組などを調べる活動を通して、循環型のまちづくりを進めていくために市民としてできることを考える。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・博物館の展示を活用した生徒の能動的な調べ学習活動
- ・博物館で調べたテーマをもとに実施する見学活動



## 4 学習活動

- ① 人数 120人程度まで
- ② 時間 活動A、B：45分 活動C：60分
- ③ 場所 展示室、セミナールーム、豊田環境学習施設 eco-T（渡刈町）など
- ④ 学習活動

時間	活動内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	<b>■ 学習課題の確認</b> ・近年の豊田におけるごみの現状を把握する。 ・ごみの減量はあまり進んでいない。 「豊田のごみが多いのはどうして？」	・進行	・注意事項
45分 活動 A	<b>■ 展示品やジオラマなどをもとに調べよう。（展示室）</b> ・ゴミが多い原因は、生活が便利で豊かになってきたことではないかな。 <b>■ 豊田のごみが多い要因について調べたことを共有し、市内のごみが増加している原因を考えよう。（セミナールーム）</b>	・個への支援 ・記録写真 ・挙手の指名	・個への支援 ・適宜助言 ・質疑応答
10分	移動・休憩		
45分 活動 B	<b>■ 豊田市の取組について、関係課の方から学ぼう。（セミナールーム）</b> ・循環型社会を目指した取組をしている。	・個への支援 ・記録写真	・市の取組の説明 ・質疑応答
30分	昼食・休憩		
50分	移動	・移動の指示	移動
60分 活動 C	<b>■ 「eco-T（エコット）」を見学して、豊田が抱えているごみ問題に対する取組を調べよう。（エコット）</b> ・循環型のまちづくりをしていくことが大切だ。 <b>■ きれいな自然環境を守る循環型の豊田にするために、自分たちができることは何か考えよう。</b> ・プラスチック製品を使う生活を見直したい、等。	・個への支援 ・記録写真 ・挙手の指名	・見学の先導

## ⑤ 留意点・備考

- ・事前の打ち合わせを行い、学習展開については相談しながら進めていく。この学習活動の一部分のみを実施することも可能。
- ・学級数によって、活動A、B、Cをローテーションして実施する。

## 1 題材名 「西澤眞蔵が思い描いた未来とは？ -心と体で豊田を味わおう-」

## 2 ねらい

- ・枝下用水を完成させた西澤眞蔵について知り、希望と勇気、克己と強い意志をもって実践する意欲・態度を養う。

【観点】A-(5) 希望と勇気、克己と強い意志（小学校）

A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志（中学校）

## 3 博物館のサポートと連携

- ・西澤眞蔵や枝下用水に関する資料の提供や素掘り体験の補助
- ・豊田土地改良区の職員による枝下用水についての講話と見学補助



## 4 学習活動

- ① 人数 100人程度まで
- ② 時間 50分（各活動）
- ③ 場所 展示室、枝下用水等
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
50分 活動A	<p>■『枝下用水をつくる』を読んで、枝下用水をつくった西澤眞蔵の思いを考えよう。（セミナールーム）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が今までやると決めたが、やりきれなかったことは？</li> <li>・西澤眞蔵に関する資料を見る。</li> <li>・眞蔵はどうして工事を始めたのだろうか？</li> <li>・眞蔵は何のためにそこまでして工事を進めたのだろうか？</li> <li>・眞蔵が思い描いた未来ってどんな未来だったのだろうか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題提示</li> <li>・発言の板書</li> <li>・挙手の指名</li> <li>・個への支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西澤眞蔵に関する資料の紹介</li> </ul>
15分	移動・休憩		
50分 活動B	<p>■用水づくりに関わる道具体験と枝下用水の見学をしよう。（枝下用水、むかしの家の庭）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当時使われていた道具を使って、土を掘ったり、土を運んだりする体験をする。</li> <li>・枝下用水に行き、現地の様子を調べ、豊田土地改良区の職員の説明を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地の案内</li> <li>・道具の説明</li> </ul>
45分	移動・昼食		
50分 活動C	<p>■展示で、枝下用水について調べよう。（展示室）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジオラマで枝下用水や明治用水を観察したり、デジタルとよマップで矢作川の流路や流域の地形の様子を調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜解説</li> </ul>

## ⑤ 留意点・備考

- ・事後の道徳科授業で郷土愛について深める時間をもつことで、さらに道徳的諸価値を深めていくことができる。また、総合的な学習の時間の取組と関連付けることも可能。
- ・学級数に応じて、活動A、B、Cをローテーションして実施する。

## 1 単元・題材名 「和の文化について調べよう」

## 2 ねらい

- ・実際に昔の道具に触れることで、自分の調べたい和の文化について考える助けとする。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・昔の道具に触れ、和の文化を体感する。
- ・むかしの家（旧平岩家住宅）を見学して、囲炉裏や土間などの古民家のづくりから、「住」について和の文化を体感する。

## 4 学習活動

- ① 人数 70人程度まで
- ② 時間 90分
- ③ 場所 セミナールーム、むかしの家
- ④ 学習活動

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
5分	■ 学習課題の確認 「和の文化に触れて、自分の調べたいことやものを考えよう」	・ 進行 ・ 学習課題提示	
35分 活動 A	■ むかしの家を見学して、気付いたことや疑問、今後調べたいことをワークシートにメモする。 ・ 履き物を脱ぐのは和の文化だね。 ・ 土間にはどんな使い道があるのかな。	・ 児童の監督 ・ 個への支援 ・ 記録写真	・ 古民家と現代の家の違いについての説明 ・ 日本住宅の特徴についての説明
10分	移動・休憩		
35分 活動 B	■ 昔の道具に触れ、気づいたことや疑問、今後調べたいことをワークシートにメモする。 ・ 着物はいつ頃まで普段着として着られていたのかな。 ・ ぼくにとっては、下駄やわらぞうりでは歩みにくいよ。昔の人はどうだったのかな。 ・ 矢立ては、筆を持ち運べていいね。	・ 児童の監督 ・ 個への支援 ・ 記録写真	・ 昔の道具に関する使い方の説明 ・ 今の道具との違いについての説明
5分	■ 振り返り ・ 感想や分かったことをまとめ、発表する。	・ 挙手の指名 ・ 評価	・ 質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・ 事前学習で、身の回りにはどのような「和の文化」（衣・食・住）があるかを考えておく。3年生社会で学習した「昔の道具」についての学習を振り返っておいてもよい。
- ・ 学級数に応じて、活動 A、B をローテーションして実施する。
- ・ 美術館の茶室童子苑などの見学と合わせてもよい。

## 1 単元・題材名 「流れる水のはたらき」

## 2 ねらい

- ・矢作川の石、砂の様子を観察する活動を通して、流れる水のはたらきの様子を考える。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・矢作川の石セット（上流、中流、下流の石）の準備
- ・石の観察のサポートや、各地点における石の特徴の解説

## 4 学習活動

- ① 人数 40人程度まで
- ② 時間 45分
- ③ 場所 体験室
- ④ 学習活動



矢作川の石セット  
(上流、中流、下流の石)

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■川の砂はどこからやってくるのかを考える。</li> <li>■矢作川の写真（上流～下流）をみて、上流から順に並べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行</li> <li>・挙手の指名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の支援</li> </ul>
15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■矢作川の石（砂）を観察し、上流・中流・下流のどの地点のものかを予想する。 (個人で考えた後、グループで考える。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行</li> <li>・安全指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察の助言</li> </ul>
15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地点によって石の様子が異なる理由を考える。</li> <li>・下流ほど丸みをおびた石が多くなるのは、流れる水によってけずられるから。</li> <li>・下流ほど小さな石や砂が多くなる。など</li> <li>■まとめをする。</li> <li>・流れる水のはたらきによって石や土地がけずられて砂ができる。</li> <li>・水のはたらきによってできた砂や泥が海まで流れることで、生き物のすみかができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行</li> <li>・挙手の指名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地点における石の特徴の解説</li> </ul>
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■振り返り</li> <li>・児童の感想、疑問点の発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行</li> <li>・評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑応答</li> </ul>

## ⑤ 留意点・備考

- ・この他、市内の災害写真を活用して授業を行うことも可能。
- ・展示室にて、豊田の土地や矢作川の様子、川と産業とのかかわりを調べるなど、社会科の学習を発展させていくことも可能。



# 1 単元・題材名 「豊田の最強生物クマムシと仲間たちをさがせ！」（微生物の観察）

## 2 ねらい

- ・クマムシを見つける活動を通して顕微鏡の使い方を学び、小さな生物について関心をもつ。食べ物を通した生物どうしの関わりを考える（小学校5・6年）
- ・クマムシを見つける活動を通して、微生物などの体のつくりや分類、生物どうしのつり合いについて考える。（中学生）
- ・自分の身の回りに生きるクマムシが最強生物といわれる由縁を知り、今後の探究心を高める。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・クマムシの生態についての概要紹介
- ・クマムシの観察方法の説明



## 4 学習活動

- ① 人数 36人まで
- ② 時間 50分（各学級）
- ③ 場所 体験室
- ④ 学習活動

豊田市陣中町（旧郷土資料館周辺で発見されたクマムシ2種）

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学習課題を確認、博物館学習スタッフの説明を聞く</li> <li>・最強生物と呼ばれる由縁を知る</li> <li>・クマムシを発見するポイントを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行</li> <li>・学習課題の提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な乾燥耐性</li> <li>・種類などの概要</li> </ul>
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■（クマムシを乾眠状態から復帰させる）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やり方の説明</li> </ul>
30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 顕微鏡（40倍）でクマムシを発見する</li> <li>■ 発見したものを共有する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニターで全体に紹介</li> <li>・100倍で観察し、クマムシと対話する</li> <li>・持参したプレートに入力・撮影する（気づいたこと・疑問など）</li> </ul> </li> <li>■ ろ紙に移動し、乾眠状態にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察の助言</li> <li>・質疑応答</li> </ul>
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 振り返り・片付け</li> <li>・児童生徒の感想</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動進行の支援</li> <li>・評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問の一部に対応</li> </ul>

## ⑤ 留意点・備考

- ・全員が発見できるように、博物館でコケを用意する（豊田の各地域のコケ）。
- ・興味、関心、探究心を高めるために、自分の身近なコケを持参して発見するとよい。（児童生徒の発見をもとに、豊田のクマムシマップをつくることも可能）
- ・クマムシだけでなく、ワムシやセンチュウなど、コケや土の中にいる生物についても学ぶことができる。
- ・研究次第で、人の医療や産業に大きな影響を与える可能性をもっている。
- ・ねらいや内容については、発達段階・学年に応じて事前相談で対応できる。

## 1 単元・題材名 「自動車をつくる工業 -自動車産業を支える豊田の珪砂-」

### 2 ねらい

- ・豊田市で採掘された珪砂が、自動車のガラスの原料として広く活用されていることに着目し、豊田市の鉱業が日本の自動車産業を支えていることを理解する。
- ・自動車をつくるためには、様々な関連工場が協力をしていることを理解する。

### 3 博物館のサポートと連携

- ・実物資料の準備と解説（珪砂）
- ・動画資料と写真資料の準備（採掘場、精錬工場、ガラス製造工場、組み立て工場）
- ・東海窯業原料株式会社の田柵鉱山の見学

### 4 学習活動

- ① 人数 120人程度まで
- ② 時間 50分（各活動）
- ③ 場所 セミナールーム、豊田市田柵町
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■ 始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・整列指示 ・進行 ・移動指示	・注意事項
50分 活動A	■ 豊田市の珪砂がどのようなモノに使われているのかを調べよう！（セミナールーム） ・豊田市で採れた珪砂を観察し、何に使われているのかを考える。 ・珪砂を通して鉱物の持続可能性を考える。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・パワーポイントを活用した活動 ・珪砂に関する説明
30分	移動・休憩（バスで珪砂や見学地の説明）		
50分 活動B	■ 珪砂を採っている現場を見学しよう！（豊田市田柵町） ・鉱山を見学し、現地の様子を調査する。 ・鉱山の仕事や珪砂について説明を聞く。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・鉱山に関する説明、解説
30分	移動・休憩		
10分	■ 終わりの会（セミナールーム） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・集合、整列指示 ・評価	・質疑応答

#### ⑤ 留意点・備考

- ・珪砂の持続可能性を考えることを通して、持続可能なものづくりや生活について学習を広げていくことも可能。
- ・東海窯業原料株式会社の田柵鉱山に訪れて、現地の様子を見学することも可能。
- ・学級数に応じて、活動A、Bをローテーションして実施する。



## 1 単元・題材名 「米づくりのさかんな地域 -昔の農具で脱穀しよう-」

## 2 ねらい

- ・収穫した米を昔の道具で脱穀する活動を通して、稲作の苦労や農家の知恵を学ぶ。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・稲の脱穀で使用する近世・近代の農具の使い方の説明
- ・博物館や藤岡民俗資料館での脱穀体験サポート

## 4 学習活動

- ① 人数 90人程度まで
- ② 時間 70分
- ③ 場所 むかしの家（旧平岩家住宅）、藤岡民俗資料館
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	<b>■ 始めの会</b> ・事前指導（見学・体験の注意事項） ・農具の使い方の説明を聞く。	・整列指示 ・進行	・注意事項 ・農具の説明
50分	<b>■ 古い道具を使って脱穀体験をしよう。</b> <b>① 足踏み脱穀機</b> ・稲束→わら+（もみ+わらくず） <b>② 唐箕</b> ・もみ+わらくず→もみ <b>③ もみすりうす</b> ・もみ→玄米+もみがら <b>④ 唐箕</b> ・玄米+もみがら→玄米 <b>⑤ 千石通し</b>	・児童の監督 ・安全面の配慮 ・記録写真 ・移動、交代の指示	・道具の使い方指示 ・体験の補助
10分	<b>■ 終わりの会</b> ・児童の感想、博物館学習スタッフの話	・片づけ補助 ・集合、整列指示	・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・博物館では①足踏み脱穀機、②唐箕の活動を実施することができる。
- ・藤岡民俗資料館では、①から⑤までの活動を実施することができる（要相談）。
- ・児童が多い場合は、グループを「体験コース」と「見学・農具の使い方説明コース」に分けて実施する。むかしの家の見学と体験を並行して実施することもできる。
- ・もみすりは操作が難しいので、もみまでの体験とする場合もある。



&lt;足踏み脱穀機&gt;



&lt;唐箕&gt;



&lt;もみすりうす&gt;



&lt;千石通し&gt;

## &lt;体験する農具&gt;

- ・足踏み脱穀機
- ・唐箕
- ・もみすりうす
- ・千石通し

# 1 単元・題材名 「豊田から考える環境と未来 -豊田の自然を守ろう-」

## 2 ねらい

- ・自然観察活動を通して、豊田の自然に愛着をもつ。
- ・観察池やどんぐりの森などの整備についての学習を通して、地域の自然を豊かに守っていくことの大切さに気付き、行動しようとする態度を育てる。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・博物館の屋外を活用した自然観察活動
- ・観察池周辺の整備や維持についての説明

## 4 学習活動

- ① 人数 100人程度まで
- ② 時間 100分
- ③ 場所 セミナールーム、観察池、どんぐりの森など
- ④ 学習活動



時間	活動内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	<b>■始めの会</b> ・博物館の観察池などを知る。 ・観察池、どんぐりの森での約束（植物や生物への触れ方等）、見どころを確認する。	・進行	・注意事項
40分	<b>■生き物や植物の観察しよう。</b> <b>（観察池、どんぐりの森など）</b> ・生き物や植物の観察活動を通して博物館の自然を味わう。	・引率 ・観察や体験の補助 ・個別支援	・活動の補助 ・生き物や植物の説明
15分	休憩・移動		
20分	<b>■観察したことをまとめよう。（セミナールーム）</b> ・観察のまとめ、質疑応答を行う。	・進行	・質疑応答
20分	<b>■博物館学習スタッフの話を聞こう。</b> ・観察池、どんぐりの森などを整備する上の苦労や願いを聞く。 ・豊田市の生態系のつながり、種の選定基準を知る。 ・質疑応答を行う。 ・「豊田の自然を守る」ために、本時の体験をどう生かすかを考える。	・進行	・講話 ・質疑応答
10分	<b>■終わりの会</b> ・児童の感想、博物館学習スタッフの話	・進行	

### ⑤ 留意点・備考

- ・学級数に応じて、観察池とどんぐりの森で入れ替えながら観察を行う。
- ・屋外での体験は、他教科の学習プログラムを参考にして組み替えて実施することも可能。
- ・本時の学習は、小5「わたしたちの生活と環境」の単元導入プログラムとして位置付けている。

# 1 単元・題材名 「豊田から考える環境と未来 - 自然災害と森林保全 - 」

## 2 ねらい

- ・これまで豊田で発生した自然災害には水害や土砂崩れが多いことに気付き、災害に強い街づくりをしていくために持続可能な森林保全の在り方について考える。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・博物館の展示を活用した生徒の能動的な調べ学習活動

## 4 学習活動

- ① 人数 120人程度まで
- ② 時間 110分
- ③ 場所 展示室、セミナールーム
- ④ 学習活動



時間	活動内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■学習課題の確認（セミナールーム） 「『とよた』に弱点があった！？これまでに発生した自然災害を探せ!!」 「自然災害を防ぐために豊田市が行っていることは？」	・進行	・注意事項
30分 活動A	■展示品やジオラマなどをもとに調べる。（展示室） ・昔から矢作川での水害が繰り返されている。 ・最近では『47災害』や『東海豪雨』で、川の氾濫や山間部の土砂崩れなどがあった。	・個への支援 ・記録写真	・個への支援
30分	■豊田で、頻繁に発生した自然災害について調べたことを共有し、水害や山間部の土砂崩れを防ぐための取組について職員の話聞く。（セミナールーム） ・川の堤防 ・森林の育成や間伐	・進行 ・拳手の指名	・取組の説明 ・質疑応答
10分	■動画「きっと行きたくなる豊田の森」視聴		
30分	■土砂崩れや水害に強い豊田にするために、自分たちができることは何か考える。（セミナールーム） ・森林保全や間伐の大切さを地域の人に広める、等。	・進行 ・拳手の指名	

### ⑤ 留意点・備考

- ・事前の打合せを行い、学習展開については相談しながら進めていく。この学習活動の一部のみを実施することも可能。

# 1 単元・題材名 「豊田から考える環境と未来 -自然災害と河川事業-」

## 2 ねらい

- ・これまで豊田で発生した水害の原因を捉え、災害に強い街づくりをしていくために持続可能な河川事業の在り方や自分たちにできることについて考える。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・博物館の展示を活用した生徒の能動的な調べ学習活動
- ・風化花こう岩を活用した体験活動

## 4 学習活動

- ① 人数 120人程度まで
- ② 時間 45分（各活動）
- ③ 場所 展示室、セミナールーム
- ④ 学習活動



時間	活動内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■学習課題の確認（セミナールーム） 「豊田には、どのような自然災害があったのかな？」	・進行	・注意事項
45分 活動A	■展示やジオラマを見て、豊田の災害を調べよう。（展示室） ・昔から矢作川での水害が繰り返されている。 ・最近では「東海豪雨」で、川の氾濫があった。	・児童生徒への支援 ・記録写真	・活動の支援
10分	移動・休憩		
45分 活動B	■豊田で、昔から水害が起きた原因について、風化花こう岩を使って考えよう。（セミナールーム） ・桜城が完成できなかったのは、洪水の影響だ。 ・天井川になることが関係している。	・進行 ・児童生徒への支援 ・拳手の指名	・動画の提示 ・水害の原因についての説明
50分	昼食・休憩		
45分 活動C	■水害を防ぐための河川事業について説明を聞き、水害に強い豊田にするために、自分たちができることは何か考えよう。（セミナールーム） ・堤防に頼るだけでなく、一人一人の防災意識を高めることが大事である。 ・住んでいる地域の特徴を、災害的な視点で知ることが大事なのではないかな。	・進行 ・児童生徒への支援 ・拳手の指名	・河川事業の説明

### ⑤ 留意点・備考

- ・活動Cでは、ハザードマップを活用してもよい。ハザードマップを使って、自分たちの地域について調べ、自分の地域を災害的な視点で捉えて特徴をつかむ活動や、災害の被害を減らすためにできることを考える活動へつなげることができる。
- ・学級数に応じて、活動A、Bをローテーションして実施する。

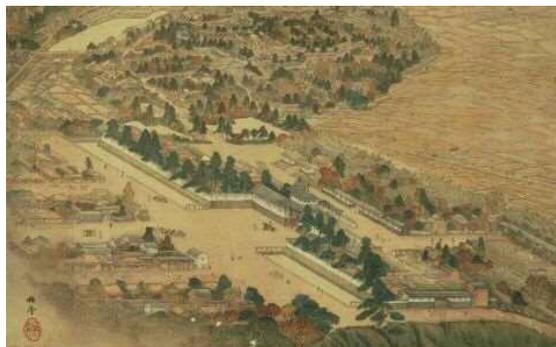
# 1 単元・題材名 「童子山の歴史を解説しよう -七州城図や樹木の街並みから歴史を探る-」

## 2 ねらい

- ・童子山地域に残る歴史的建造物の価値に気付き、解説する文章を意欲的に書いたり効果的に編集したりしようとする事ができる。
- ・資料や取材したことを整理、分類して歴史的なものについて解説する文章を書くことができる。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・七州城図及び図説（牧野敏太郎画）等の資料や今に残る歴史的建造物をもとに、拳母城下の街並みや描かれた人物の説明



## 4 学習活動

- ① 人数 120人程度まで
- ② 時間 80分
- ③ 場所 展示室、樹木の城下町
- ④ 学習活動

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
5分	■学習課題の確認。 「童子山地域には、どのような歴史があるのだろうか」	・進行 ・学習課題の提示	
20分	■展示室にある七州城図及び図説（牧野敏太郎画）等の資料を見て、気付いたことを話し合う。 ・拳母城の周りにある堀・見張り台 ・高さ5.5mもある大手門など	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真 ・拳手の指名	・展示の説明
50分	■実際に樹木の街を歩き、拳母城下の歴史を知る。 ・水音寺の常夜燈…防火防災の願い ・藩校崇化館跡…武士の子のみが通えた、学科と武芸を学んでいた、伊藤東所を京都から招いていた ・米蔵門…かんぬきが付いた扉、外から中が見えにくいガラリ付き窓 ・家の窓にある格子…防犯技術	・児童の監督 ・個への支援 ・記録写真	・各見学場所の説明
5分	■振り返り ・感想や分かったことをまとめ、発表する。	・拳手の指名 ・評価	・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・事前学習として、タブレットで江戸時代の人々の生活についての映像を見て、当時の暮らしについてのイメージをもっておく。
- ・観光地や名勝リーフレットから学び、事後にリーフレットにまとめられるようにする。
- ・七州城隅櫓の見学なども行うことができる。



## 1 題材名 「この筆あと、どんな人? -美術館へ行こう-」

## 2 ねらい

- ・人物が描かれた美術作品を見て、筆使い・絵の具の使い方の違いや表現の意図・特徴、よさを味わう。
- ・美術館へ行き、実物の美術作品を観るよさを味わう。

## 3 美術館のサポートと連携

- ・グスタフ・クリムトの《オイゲニア・プリマフェージの肖像》での対話型鑑賞
- ・必要に応じて、エゴン・シーレ、オスカー・ココシュカ、岸田劉生作品等の自由見学での解説
- ・豊田市美術館見学案内

## 4 学習活動

- ① 人数 100人程度まで
- ② 時間 80分
- ③ 場所 常設展示室
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	美術館学習スタッフ
15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■事前指導（見学の注意事項）</li> <li>■学習課題の確認</li> </ul> 「人物が描かれた美術作品を見て、筆使い・絵の具の使い方の違いや表現の意図・特徴、よさを味わおう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整列指示</li> <li>・進行</li> <li>・学習課題提示</li> <li>・挙手の指名</li> <li>・移動指示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館紹介、解説</li> <li>・注意事項</li> </ul>
30分 活動A	<ul style="list-style-type: none"> <li>■グスタフ・クリムトの《オイゲニア・プリマフェージの肖像》を鑑賞し合う。</li> <li>・グスタフ・クリムトの筆づかいをまねて動作化してみる。</li> <li>・見学前の印象と実物作品を目にしたときの違いに着目し、見つけたことをワークシートに書きこみ、伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の監督</li> <li>・挙手の指名</li> <li>・安全指導</li> <li>・記録写真</li> <li>・移動指示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誘導</li> <li>・対話型鑑賞</li> </ul>
25分 活動B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■エゴン・シーレ、オスカー・ココシュカ、岸田劉生等の人物画やその他の作品を自由に鑑賞する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明</li> <li>・個別に解説</li> </ul>
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■振り返り</li> <li>・児童からの質問、感想など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行</li> <li>・挙手の指名</li> <li>・評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑応答</li> </ul>

## ⑤ 留意点・備考

- ・児童数によって、活動Aと活動Bに分かれて学習をすすめる。
- ・事前に、学習用タブレットでクリムトの《オイゲニア・プリマフェージの肖像》を鑑賞し、美術館で本物を観て確かめたいという気持ちを高める。
- ・事前指導で作品ガイドボランティアの派遣も可能。
- ・注意事項（走らない・大声で話さない・美術品には触らない等）を守って見学するように、指示を徹底する。
- ・事後に、筆使いや絵の具の使い方等、意図的に表現を工夫するように学びを生かす。
- ・人数が多い場合は、AM/PMで博物館と入れ替えて対応を検討。

# 1 単元・題材名 「動物の分類 -動物のつくり注目して、共通点と相違点を見つけよう-

## 2 ねらい

- ・はく製を見たり触れたりすることで、動物に対する興味・関心を高める。
- ・肌触りや骨格などの動物のつくりから、共通点や相違点を発見する。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・観察の助言や支援
- ・動物の名前や特徴、観察時の助言

## 4 学習活動

- ① 人数 40人程度まで
- ② 時間 60分
- ③ 場所 展示室、体験室
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■博物館学習スタッフ員による「はく製」の取扱の説明（体験室）	・進行	・ガイダンス
25分	■常設展示の見学、動物のはく製の観察（展示室） ・動物の特徴をカードに記入する。 ・各はく製横のQRコードをタブレットで読み込むことで子の生み方の様子や生息地などを観察する。	・進行 ・児童生徒の支援	・観察の助言
15分	■分類および意見交流（体験室） ・作成したカードをもとに、さまざまな視点で動物を分類する。 ・カモノハシはどの動物の仲間分類できるか予想する。	・進行 ・児童生徒の支援	・考察の助言 ・質疑応答
10分	■振り返り ・児童生徒の感想、疑問の発表	・進行 ・評価	・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・貴重な動物のはく製もあるため、不用意に児童生徒が触れないよう、配慮が必要である。一方で触れることができるはく製には肌で違いを感じさせるために積極的に触れさせたい。
- ・中1理科「植物の分類 -植物のつくり注目して、共通点と相違点を見つけよう-」と同時期に行ってもよい。



# 1 単元・題材名 「豊田の地層と化石 - 豊田の土地の変化を推測しよう -」

## 2 ねらい

- ・化石発掘の実体験を通して岩石や化石に対する興味・関心を高める。
- ・豊田の岩石や化石、地層を観察することで、豊田の土地の変化を推測する。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・剥ぎ取り標本や化石発掘体験時の支援
- ・土地のつながりや変化の考察時の助言

## 4 学習活動

- ① 人数 40人程度まで
- ② 時間 50分
- ③ 場所 体験室
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	<b>■展示室又は授業用小型剥ぎ取り標本の観察</b> ・地層がどんなものかイメージをつかむ。 ・地層のでき方を想像する。	・進行 ・児童生徒の支援	・ガイダンス ・観察の助言
25分	<b>■化石の発掘体験</b> ・品野層から化石を取り出す。 ・岩の観察やどんなものが化石となっていたのかを記録する。	・進行 ・安全指導	・観察の助言
10分	<b>■豊田における土地の変化を推測</b> ・見つかった化石から当時どんな環境だったのかを推測する。	・進行	・考察の助言 ・質疑応答
5分	<b>■振り返り</b> ・児童生徒の感想、疑問の発表	・進行 ・評価	・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・豊田の地層とその一部である品野層（泥岩）を観察し、地層のでき方を考える。
- ・品野層から見つかる化石の種類から、当時どんな環境だったのかを推察する。
- ・地層が長い年月をかけできること、地層にはどのような土地の変化が生じていたのかが記録されていることを学ぶ。

### <豊田の品野層（泥岩）>

豊田田舂町や西広瀬町に分布する新第三期（約1800万年前）の地層で、田舂町からは海産動物、西広瀬町からは陸上植物の化石が産出する。このうち田舂町については、産出する化石から50~60mほどの比較的浅い海が広がっていたことが想定される。



## 1 単元・題材名 「豊田の岩石と火山」

## 2 ねらい

- ・ルーペや顕微鏡を活用し、岩石や岩石を構成する鉱物を観察することで、岩石や地質に対する興味・関心を高める。
- ・豊田で見つかる火成岩の特性から、どのような環境があったのかを推測する

## 3 博物館のサポートと連携

- ・岩石標本、豊田の地質図の準備
- ・観察の助言

## 4 学習活動

- ① 人数 40人程度まで
- ② 時間 45分
- ③ 場所 体験室
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
15分	<b>■地質図と岩石の観察</b> ・豊田の地質図 ・豊田の石の観察 花こう岩、玄武岩、安山岩などの標本を観察する（質感、結晶の構造など）。	・進行 ・児童生徒の支援	・ガイダンス ・観察の助言
20分	<b>■火成岩に含まれる鉱物の観察</b> A 風化花こう岩の観察 B 矢作川の川砂の観察 ※双眼実体顕微鏡を使用すると鉱物が詳細に観察可能。 ※鉱物のスケッチも可能。	・進行 ・児童生徒の支援	・観察の助言
10分	<b>■振り返り</b> ・観察をとおして火成岩が鉱物からできていることを確認する。 ・安山岩や玄武岩から火山を推測させる。	・進行 ・評価	・考察の助言 ・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・豊田に分布する火成岩そのものを観察し、種類による特徴の違いを発見する。
- ・岩石は鉱物等が集まってできていること、種類により組織が違うことを確認する。
- ・一部の地域では玄武岩や安山岩があることから、過去に豊田にも活火山があったことを推測する。



風化花こう岩



矢作川の川砂

ガーネットや石英（水晶）などの鉱物の他、黒雲母、長石などを観察することができる。

## 1 単元・題材名 「豊田の断層と地震」

## 2 ねらい

- ・断層の剥ぎ取り標本から、大地の動き（プレート運動）を確認する。
- ・プレート運動が地震を引き起こす要因の一つであることを学ぶ。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・観察や考察時の助言
- ・断層の実験の準備

## 4 学習活動

- ① 人数 40人程度まで
- ② 時間 50分
- ③ 場所 体験室
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
15分	■断層剥ぎ取り標本の観察（展示室） ・展示室で断層の剥ぎ取り標本を観察する。 ・断層が発生した原因を推測する。	・進行 ・児童生徒の支援	・ガイダンス ・観察の助言
25分	■断層ができる過程の実験（体験室） ・断層のでき方の実験。 ・剥ぎ取り標本を観察した結果と実験の結果を比較する。	・進行 ・児童生徒の支援	・観察の助言
10分	■振り返り ・断層が発生する仕組みや、断層と地震との関連について振り返る。	・進行 ・児童生徒の支援 ・評価	・考察の助言 ・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・断層の剥ぎ取り標本を観察する際は、構造がどのようになっているのか理解できるようにする。
- ・体験室やセミナールームで、地層の剥ぎ取り標本を使った学習を実施することができる。
- ・プレート運動、断層、地震がそれぞれ関連付くよう指導時に働きかける。
- ・導入の断層の観察は、じっくり時間をとるために展示室の見学を兼ねて、一つの学習活動としてもよい。

## 《地層の剥ぎ取り標本》



大きさ 約500mm × 約2000mm

## 1 単元・題材名 「縄文のむらから古墳のくにへ - 豊田の古代人って、どんな暮らし? -」

## 2 ねらい

- ・土器、石器、住居跡から縄文時代と弥生時代の人々の工夫を考える。
- ・曽根遺跡公園の中を歩いて観察することで、古代人の生活を実感する。
- ・博物館の常設展示を使って調べることで、とよたの歴史に興味をもつ。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・曽根遺跡での竪穴住居(復元)の見学や古墳の形状についての案内と説明
- ・縄文土器や石器の解説



## 4 学習活動

- ① 人数 140人程度まで
- ② 時間 50分（各活動）
- ③ 場所 展示室、セミナールーム、曽根遺跡公園（竪穴住居、香久礼1号墳、八柱社古墳）
- ④ 学習活動

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・整列指示、進行 ・移動指示	・注意事項
50分 活動A	■縄文時代と弥生時代を比べよう。 （セミナールーム） ・実物の土器や服装などを体感する。 ・縄文どんぐりの観察をする。 ・石皿とすり石、土器を使ったどんぐりの食べ方を考える。 ・黒曜石で紙を切る体験をする。	・進行 ・時間調整 ・グループ分けの指示 ・安全確保	・パワーポイントを活用した活動 ・土器の用途や産地の説明
15分	移動・休憩		
50分 活動B	◆石器から縄文時代の交易を探ろう。 （展示室） ・石鏃を観察する。 ・とよたの石器の石材の産地を調べ、他地域の石材が使われている要因を考える。	・進行 ・時間調整 ・グループ分けの指示 ・安全確保	・パワーポイントを活用した活動 ・石器の用途や産地の説明
50分	移動・昼食		
50分 活動C	■住居跡から古代人の「家」を探ろう。 （曽根遺跡公園） ・縄文人の住居跡を調査する。 ・家の周りに溝をつくったり、地面を掘ったりした理由を考える。	・進行 ・時間調整 ・グループ分けの指示 ・安全確保	・住居の工夫に関する着目する支店の提示と説明
15分	移動・休憩		
10分	■終わりの会（セミナールーム） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・集合、整列指示 ・評価	・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・学級数に応じて、活動A、B、Cをローテーションして実施する。
- ・弥生時代の衣服や土器などを比較する活動も実施が可能である。
- ・5～10月の古墳見学は、学校で虫よけスプレーを用意する。
- ・個に応じて長そで、長ズボンの着用が必要になる。
- ・昼食場所は、公園内敷地を利用することができる（雨天時は博物館等を利用する）。

## 1 単元・題材名 「縄文のむらから古墳のくにへ -古墳を調査しよう-」

## 2 ねらい

- ・古墳を見学し、その大きさや形を教科書の古墳と比較し、その違いの理由を考える。
- ・市内に残る古墳とその分布について学習することで、古墳の立地の特徴をとらえる。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・見学可能な古墳について現地説明と案内
- ・出土品（須恵器、まが玉などの副葬品）の紹介と観察サポート

## 4 学習活動

- ① 人数 100人程度まで
- ② 時間 30分（各活動）
- ③ 場所 見学可能な古墳
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	<b>■学習課題の確認</b> 「古墳の特徴を調べて、説明できるようになろう」 ・事前指導（見学の注意事項） ・移動（グループ分け、荷物置きなど）	・整列指示 ・進行 ・移動指示	・注意事項
10分	移動		・説明
30分	<b>■古墳を見学し、教科書の古墳との違いを見つけよう。</b> ・大きさ、形、周溝、石室 <b>■とよたの古墳が教科書の古墳と違う理由を考えよう。</b> ・権力の大きさ、造られた時期	・児童生徒の監督 ・記録写真 ・安全指導 ・挙手の指名	・見学案内 ・個別に支援 ・観察の視点説明
10分	休憩・移動		
30分	<b>■博物館学習スタッフに教えてもらおう。</b> ・教科書の古墳との共通点 ・教科書の古墳との相違点とその理由 ・古墳の立地の特徴 <b>■出土品を観察しよう。</b> 須恵器、まが玉、耳飾り、銅鏡	・進行 ・挙手の指名  ・安全指導 ・観察補助	・古墳に関わる説明 ・質疑応答  ・全体説明 ・観察の視点説明
10分	<b>■振り返り</b> ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・集合、整列指示	

## ⑤ 留意点・備考

- ・事前の打合せで、見学場所、内容や時間配分などについて検討する（コースは要相談）。
- ・市内の古墳の概要について学習した上での古墳見学にも対応できる。

**<豊田市内で見学ができるおもな古墳（移築、復元を含む）>**

**猿投地区：**池田1号墳、馬場瀬古墳群、滝1号墳

**朝日丘地区：**稲荷塚古墳

**高橋地区：**八柱社古墳、神明社古墳、香久礼1号墳

**上郷地区：**三味線塚古墳、車塚古墳

**豊南地区：**豊田大塚古墳

**小原地区：**宮口古墳群

**藤岡地区：**御内平古墳

**博物館：**櫻尾1号墳

## 1 単元・題材名 「戦国の世から天下統一へ -長篠合戦図屏風と火縄銃について調べよう-

## 2 ねらい

- ・博物館所蔵の長篠合戦図屏風や地形図から読み取ったことを踏まえて、長篠の戦いの様子について理解する。
- ・時期の異なる鎧を比較し形の変化の要因を考えることで、戦い方の変化を捉える。
- ・長屋門に行って調査する活動を通して、武士の家屋の特徴について理解を深め、とよたの歴史に興味をもつ。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・長篠合戦図屏風についての解説
- ・火縄銃の使用方法についての説明、体験のサポート

## 4 学習活動

- ① 人数 80人程度まで
- ② 時間 50分（各活動）
- ③ 場所 セミナールーム、展示室
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■ 始めの会（セミナールーム） ・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 進行	
50分 活動 A	■ 鎌倉鎧と戦国鎧を比較しよう。 （セミナールーム） ・ 鎌倉鎧と戦国鎧を観察して比較する。 ・ 鎧の違いの理由を考える。 ・ 戦い方や城の変化について説明を聞く。 ・ 鎧の試着体験をする。	・ 進行 ・ 時間調整 ・ 安全確保	・ パワーポイントを活用した活動 ・ 鎧の特徴と戦い方に関する説明
15分	休憩・移動		
50分 活動 B	■ 長篠合戦図屏風から信長の戦い方を探ろう。 （展示室） ・ 長篠合戦図屏風を読み取る。 ・ 屏風から信長が勝った要因を考える。 ・ 鉄砲をもつ体験をする。 ・ 設楽原で戦った理由について、地形図をもとに考える。	・ 進行 ・ 時間調整 ・ 安全確保	・ 屏風を見る視点を提示 ・ 鉄砲の説明
15分	休憩・移動		
10分	■ 終わりの会（セミナールーム） ・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 進行 ・ 評価	・ 質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・長篠合戦図屏風と教科書を比較する授業と、火縄銃の授業を分けて実施することも可能。
- ・長篠合戦図屏風に描かれている寺部を領知とした武将渡辺守綱を知ること、学校で学ぶ歴史の中に豊田市の歴史が息づいていると感じさせることができる。
- ・渡辺家家臣の門であり、市指定文化財である遊佐家長屋門、旧松本家長屋門の紹介や見学とセットで学習することもできる。
- ・学級数に応じて、活動 A、B をローテーションして実施する。

## 1 単元・題材名 「戦国の世から天下統一へ - 検地帳を読み解こう -」

## 2 ねらい

- ・ 検地帳をもとに、豊臣秀吉による天下統一の政策や支配のしくみについて学ぶ。
- ・ 検地帳から今も残る地名などを読みとり、郷土の歴史への興味・関心を高める。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・ 市内に残る検地帳（レプリカ）の資料紹介と解説
- ・ 検地帳に残る地名や人物名の読みとりのサポート
- ・ 検地体験で使う道具の準備



## 4 学習活動

- ① 人数 80人程度まで
- ② 時間 60分（各活動）
- ③ 場所 セミナールーム、イベント広場
- ④ 学習活動

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■ 始めの会（セミナールーム） ・ 講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・ 進行	
60分 活動 A	■ 検地帳を読み解こう。（セミナールーム） ・ 検地帳から分かったことを発表する。 地名、人名、田畑や年貢の量を示す数字 ・ 検地帳の読み方などについて説明を聞く。 記載内容、目的等	・ 進行 ・ 時間調整 ・ 安全確保	・ 検地帳を読み取る視点の提示、説明
15分	休憩・移動		
60分 活動 B	■ 検地をやってみよう。（イベント広場） ・ 検地で使った道具を確認する。 ・ 検地を再現してみる。 ・ 振り返りをする。	・ 活動進行の支援 ・ 時間調整 ・ 安全確保	・ 検地の手順や方法の説明 ・ 土地の面積に関する説明
10分	休憩・移動		
10分	■ 終わりの会（セミナールーム） ・ 児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・ 進行 ・ 評価	・ 質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・ 活動 A では、4人程度のグループに分かれて、相談しながら読み解いていく。
- ・ 検地帳は、江戸時代のもの（秀吉よりも後の時代）であることに留意する。
- ・ 学級数に応じて、活動 A、B をローテーションして実施する。

同所 中田吉畝二式歩	同所 上田吉畝廿四歩	同所 上田吉畝廿四歩	ふつそ 上田吉畝拾八歩	三州賀茂郡森村御検地帳 上紙トモ四拾三枚 垣見勘兵衛 木俣半右衛門	慶長九年甲辰十一月十六日
宗一郎	與三	宗一郎	與三		

## 1 単元・題材名 「人々の暮らしと身分 - 拳母の城下町を調べよう -」

## 2 ねらい

- ・七州城画やジオラマの観察を通して、城の立地と川の影響との関連を考える。
- ・城下町に行って調査する活動を通して、拳母城下町の特徴について理解を深め、とよたの歴史に興味をもつ。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・七州城図及び図説（牧野敏太郎画）の資料紹介と読みとりサポート
- ・市内に残る高札（五榜の掲示:第三札）の解説サポートと解説
- ・江戸時代の拳母城下に残る史跡や人々の暮らしなどの解説



## 4 学習活動

- ① 人数 120人程度まで
- ② 時間 45分（各活動）
- ③ 場所 展示室、セミナールーム、拳母城下町
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■ 始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・進行	
45分 活動A	■ 七州城図から人々の様子や七州城の立地を調べよう。（展示室） ・七州城図で描かれた人を探し、どのような人なのかを調べる。 ・展示室で、矢作川の洪水により人々が苦労したことを学ぶ。 ・桜城から七州城に変更した理由を考える。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・七州城画の着目する視点の提示と説明 ・江戸時代の洪水に関する説明
15分	休憩・移動		
45分 活動B	■ 拳母城の城下町を歩いて、当時の様子を探ろう。（拳母城下町） ・七州城の隅櫓、拳母の町並みを歩く。 （水音寺、藩校跡、米蔵門、窓にある格子） ・七州城や城下町の説明を聞く。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・城下町の特徴に関する着目する視点の提示と説明
50分	移動・昼食		
45分 活動C	■ 拳母にも掲げられた五榜の掲示（第三札）の内容を読みとろう。（セミナールーム） ・五榜の掲示の内容を読み取り、その内容を班ごとに発表する。 ・解説を聞き、資料に書かれている内容を確認する。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・五榜の掲示（第三札）で着目する視点の提示と説明 ・高札が掲げられた場所の説明
15分	休憩・移動		
10分	■ 終わりの会（セミナールーム） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・進行 ・評価	・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・学級数に応じて、活動A、B、Cをローテーションして実施する。
- ・城下町の古地図を使ったクイズラリーもある。活動時間は、60分程度。クイズの内容などは応相談。
- ・七州城隅櫓（写真I）の内部見学やまちかど展示館（写真II）の見学を希望する場合は要相談。



## 1 単元・題材名 「人々のくらしと身分 – 武家屋敷の長屋門を調べよう –」

## 2 ねらい

- ・江戸時代に建てられた長屋門の見学を通して、当時の武家の生活について学ぶ。
- ・市内に残る文化財について学ぶことで、郷土の歴史への興味・関心を高める。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・旧松本家長屋門についての現地解説
- ・江戸時代の寺部陣屋の様子や初代渡辺守綱についての説明

## 4 学習活動

- ① 人数 最大100人程度まで
- ② 時間 30分（各活動）
- ③ 場所 旧松本家長屋門・遊佐家長屋門
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
5分	■学習課題の確認 「武家屋敷の長屋門にはどのような工夫があるのかな」	・整列指示 ・進行 ・移動の指示	・注意事項
30分 活動A	■旧松本家長屋門を見学しよう。 ・学芸員の説明を聞く。 渡辺家や江戸時代の寺部について 渡辺家と松本家の関係 展示物や建物の構造 ・疑問点や感想を発表する。	・児童生徒の監督 ・個への支援 ・記録写真  ・拳手の指名	・建物の見方のポイント説明   ・質疑応答
5分	移動・休憩		
30分 活動B	■遊佐家長屋門を見学しよう。 ・遊佐さんの案内と説明を聞く。 各部屋の使われ方 渡辺家と遊佐家の関係 展示物や建物の構造 ・疑問点や感想を発表する。	・児童生徒の監督 ・個への支援 ・記録写真  ・拳手の指名	・遊佐さんによる説明 ・建物の見方のポイント説明  ・質疑応答
10分	■振り返り ・児童生徒の感想、疑問点の発表		

## ⑤ 留意点・備考

- ・七州城の学習と併せて実施することで、江戸時代の城下町についての理解を深められる。
- ・寺部城跡、守綱寺、隨應院等と合わせて、近世の寺部城下の様子を学習することも可能。



## &lt;旧松本家長屋門（市指定文化財）&gt;

松本家は江戸時代の寺部を治めていた渡辺家の重臣で、現在の寺部町に居住し、家老職、普請奉行をつとめた家格である。旧松本家長屋門は、江戸時代に建立された武家屋敷の景観を伝える長屋門で、建築当初の外観と構造が良好に残されている。市域に残る武家屋敷長屋門は旧松本家長屋門と遊佐家長屋門（市指定文化財）の2棟のみである。

## 1 単元・題材名 「開国と不平等条約 - 古文書を読んでペリー来航の影響を考えよう -」

## 2 ねらい

- ・市内に残る古文書から、ペリー来航によるこの地域への影響を考える。
- ・古文書の内容を読み取ることで、当時のこの地域の人々の思いにせまる。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・市内に残るペリー来航にかかわる古文書の資料紹介とこの地域への影響の解説
- ・足助の旧鈴木家住宅の案内と解説

## 4 学習活動

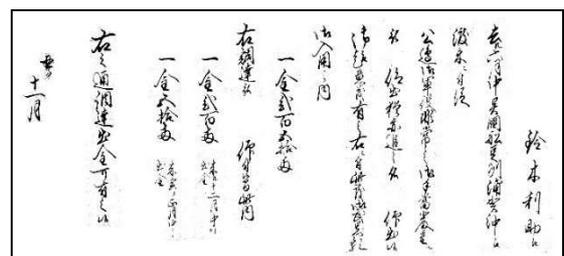
- ① 人数 活動 A：120人程度まで 活動 B、C：60人程度まで
- ② 時間 活動 A：50分、 活動 B、C：40分
- ③ 場所 セミナールーム、足助の町並み、旧鈴木家住宅
- ④ 学習活動

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・進行	
50分 活動 A	■松平の菅沼家文書と足助の鈴木家文書から、ペリー来航の影響を読み解こう。（セミナールーム） ・古文書を広げて見る。 ・書かれている内容を班ごとに推測する。 ・古文書についての学芸員の解説を聞く。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・古文書で着目する視点の提示 ・ペリー来航がこの地域に与えた影響の説明
60分	休憩・移動 バスでの移動中に、足助の概要について説明を聞く。（足助の歴史、重伝建の取組など）		
40分 活動 B	■古文書に出てきた鈴木家があった足助の町並みを歩いてみよう。（足助の町並み） ・町並みを見学し、説明を聞く。 常夜灯 馬頭観音 玉田屋 道標 荷の口会所跡 マンリン小路	・児童生徒の監督 ・記録写真 ・安全指導 ・誘導補助	・足助の町並みの案内と解説
50分	移動・昼食（足助交流館など）		
40分 活動 C	■古文書に出てきた鈴木家で、現地調査をしよう。（旧鈴木家住宅） ・旧鈴木家住宅を見学し、説明を聞く。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・旧鈴木家住宅の説明
10分	■終わりの会（足助交流館など） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・活動進行の支援 ・評価	・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・足助は平成23年に、愛知県で初めての国の重要伝統的建造物群保存地区（通称：重伝建）に選定された。
- ・旧鈴木家住宅（一部公開）の見学希望がある場合は、事前連絡をする。
- ・足助での現地見学ではなく、展示室を活用して江戸時代の豊田の様子学習も可能。
- ・足助の古地図を使ったクイズラリーもある。

## &lt;鈴木家文書&gt;



## 1 単元・題材名 「近代の遺構をめぐろう -矢作川のおかげで豊田の産業が発展したって、ホント?-」

## 2 ねらい

- ・豊田は川の力を利用して産業を発達させてきたことを理解する。
- ・豊田の近代化に関わる遺構を調査する活動を通して、貯木場や明治用水旧頭首工の特徴について理解を深め、豊田の歴史に興味をもつ。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・見学場所における案内と解説

## 4 学習活動

- ① 人数 80人程度まで
- ② 時間 50分（各活動）
- ③ 場所 展示室、セミナールーム、明治用水旧頭首工、百々貯木場
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	<b>■ 始めの会（セミナールーム）</b> ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・整列指示 ・進行 ・移動指示	・注意事項
50分 活動A	<b>■ 豊田の近代化について、「川と産業との関わり」を探ろう。（展示室・セミナールーム）</b> ・展示室で川と産業が関わっている場面を探して、共有する。 ・明治以降の産業の発展について調べる。（養蚕業・製糸業・トロミルなど）	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・豊田の養蚕業・製糸業・トロミルに関する説明
30分	移動・休憩		
50分 活動B	<b>■ 豊田の近代化について、「明治用水旧頭首工」から探ろう。（明治用水旧頭首工）</b> ・頭首工の様子を観察する。 ・明治用水旧頭首工について説明を聞く。 ・明治用水をつくった理由を考える。 ・船通し閘門をつくった理由を考える。  <b>《別案》</b> <b>■ 豊田の近代化について、「百々貯木場」から探ろう。（百々貯木場）</b> ・貯木場の様子を調査する。 ・貯木場について説明を聞く。 ・矢作川の中流域に貯木場をつくった理由を考える。	・活動進行の支援 ・時間調整 ・安全確保	・明治用水旧頭首工の特徴に関する着目する視点の提示と説明  ・百々貯木場の特徴に関する着目する視点の提示と説明
10分	<b>■ 終わりの会</b> ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・集合、整列指示 ・評価	・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・学級数に応じて、活動A、Bをローテーションして実施する。
- ・現地では自動車が通る道を歩くので交通安全に気を付ける。また、坂道や草が生えている場所を歩くため、動きやすい靴を履いてくる。トイレがないためできるだけ博物館で済ませる。

## 1 単元・題材名 「長く続いた戦争と人々の暮らし -現地と実物資料から考えよう-」

## 2 ねらい

- ・実物資料と戦争の様子を関連づけながら、戦時中のとよたの様子について理解を深める。
- ・草薙隊の関連場所に行って調査する活動や実物資料を調査する活動を通して、とよたの歴史に興味をもつ。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・伊保原飛行場や草薙隊に関する現地見学の案内と解説
- ・戦争に関わる具体物の説明

## 4 学習活動

- ① 人数 120人程度まで
- ② 時間 50分（各活動）
- ③ 場所 展示室、セミナールーム  
伊保原飛行場跡、草薙隊の関連場所
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■ 始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・整列指示 ・進行 ・移動指示	・注意事項
50分 活動A	■ ポスターや葉書から当時の人々の生活を探ろう。（セミナールーム） ・ポスターを読み取る ・各家庭でうさぎを増産した理由を考える。 ・当時の生活の様子について説明を聞く。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・パワーポイントを活用した活動 ・当時のとよたの様子に関する説明
15分	移動・休憩		
50分 活動B	■ 展示やモノでとよたの戦争を調べよう。（展示室・セミナールーム） ・展示室で戦争に関わることを調べる。 ・実物資料に触れる体験をする。 （日章旗、千人針、木銃、焼夷弾など） ・戦争関連のものがどのように使われたのかを説明を聞く。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・戦争関連の実物資料の説明
50分	移動・昼食		
50分 活動C	■ とよたにもあった特攻隊！草薙隊を探ろう。（草薙隊の関連場所） ・石碑を観察する。 ・当時の伊保原の様子や草薙隊について学ぶ。 ・滑走路だった場所を確認する。 ・地下壕を見学し、説明を聞く。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・伊保原飛行場の特徴に関する着目する視点の提示と説明
20分	移動・休憩		
10分	■ 終わりの会（セミナールーム） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・集合、整列指示 ・評価	・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・日章旗、木銃、養兔増産奨励ポスター、千人針、戦時中の子どもの絵等は、教材貸出も可能。
- ・学級数に応じて、活動A、B、Cをローテーションして実施する。

## 1 教材名 「行動する建築家 坂 茂 -働くことってどんなことだろう-」

## 2 ねらい

- ・坂茂さんの建築に込める思いについて話し合うことで、働くことや社会に奉仕することの意義について考えを深めることができる。

【観点】 C-（14）勤労、公共の精神

## 3 博物館のサポートと連携

- ・坂茂さんのインタビュー動画の提供、見学補助、紙管の実物資料

## 4 学習活動

- ① 人数 100人程度まで
- ② 時間 45分
- ③ 場所 セミナールーム
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「働く」と言ってイメージすることを考える。</li> <li>■学習テーマの確認 「働くことってどんなことだろう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行</li> <li>・挙手の指名</li> <li>・発言の板書</li> </ul>	
15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■資料1を読み、坂さんが「紙管」を活用した理由を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクルできる→自然</li> <li>・大きさも変えることができる→被災者</li> </ul> </li> <li>■坂さんは、どのような思いで紙管を使った支援を各地で行ったのだろう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている人たちを喜ばせたかった</li> <li>・環境を守るため</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行</li> <li>・挙手の指名</li> <li>・発言の板書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙管の提示</li> <li>・坂さんのプロフィール紹介</li> </ul>
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■坂さんは、どのような願いを込めて豊田市博物館を設計したのだろう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境や森林を守りたい</li> <li>・みんなの喜ぶ姿が見たい</li> <li>・今の人々だけでなく、未来の人々のため</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の支援</li> <li>・進行</li> <li>・挙手の指名</li> <li>・発言の板書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂さんのインタビューを紹介</li> <li>・博物館に紙管の家具や市内の木材が使われていることを紹介</li> </ul>
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■『働くときに大切なことはなんだろう』を話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行</li> <li>・挙手の指名</li> <li>・発言の板書</li> </ul>	
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■振り返りを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の支援</li> </ul>	

## ⑤ 留意点・備考

- ・この授業を事前指導として、各学校で実施してもよい。
- ・授業で活用する資料は、博物館が提供する。
- ・博物館に関する情報はホームページからも調べられる。

## 1 単元・題材名 「美のタイムトラベル -土器の文様から当時の人々の思いを想像しよう-」

## 2 ねらい

- ・縄文土器に触れたり、観察したりする体験から、原始美術の造形的な特徴や美しさを感じる。
- ・縄文土器の形や文様に着目して、土器に込められた縄文人の思いについて考える。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・縄文土器の準備や取り扱いの説明、土器に関する解説など
- ・展示品を見るポイントの解説など

## 4 学習活動

- ① 人数 120人程度まで
- ② 時間 60分(各活動)
- ③ 場所 セミナールーム 展示室
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■始めの会(セミナールーム) ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・進行	
10分	移動		
60分 活動A	■縄文土器の文様から当時の人々の思いを想像しよう。(体験室) ・縄文土器を鑑賞する。 ・当時の生活様式(生活や道具)に注目し、土器の造形や文様について話し合う。 ・土器の文様を見つけて、発表ノートに記録する。(写真と感じたこと) ・タブレットで、見つけた文様と文様から感じたことを共有する。 ・土器の文様に込められた当時の人々の思い(装飾の意味や理由)について意見交流する。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・縄文土器の取り扱いの説明 ・縄文土器に関する解説 ・体験の支援
10分	休憩・移動		
60分 活動B	■博物館にあるいろいろな模様を探そう。(展示室) ・展示品をみて、さまざまな模様を見つける。 ・見つけた模様をタブレットで写真を撮って、感じたことを記録する。 ・個人で見つけた模様を全体で共有する。(タブレットではなく、スケッチでも可能) ・展示作品から考えられる時代背景や文様について意見交換する。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・展示品を観るポイントを提示
10分	休憩・移動		
10分	■終わりの会(セミナールーム) ・生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・進行 ・評価	・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・タブレットの発表ノートを活用することが可能。ワークシートに手描きのスケッチをして実施することも可能。
- ・鎧の模様などを取り上げて実施することも可能。
- ・学級数に応じて、活動A、Bをローテーションして実施する。
- ・美術館での鑑賞と組み合わせて実施することも可能。

## 1 単元・題材名 「植物の特徴 -植物のつくり注目して、共通点と相違点を見つけよう-」

## 2 ねらい

- ・スケッチのしかたやルーペの使い方を活用し、植物に対する興味・関心を高める。
- ・花卉や葉脈、根などの植物のつくりから、共通点や相違点を発見する。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・観察のしかたのサポート
- ・植物の名前や特徴、観察時の助言等



## 4 学習活動

- ① 人数 40人程度まで
- ② 時間 60分
- ③ 場所 体験室、観察池、どんぐりの森など
- ④ 学習活動

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	<b>■ 様々な植物標本の観察（体験室）</b> ・複数の植物標本を観察し、花、葉、根といった各部分の違いを比較する。 ・植物にはどのような形態があるのか把握する。	・進行	・ガイダンス
5分	移動		
20分	<b>■ 屋外散策と植物の観察（どんぐりの森など）</b> ・一つはルーペを用いてスケッチする。 ・植物の花弁や葉脈、根に注目して、タブレットで写真を撮影する。	・生徒への支援	・観察の助言
5分	移動		
15分	<b>■ 分類および意見交流（体験室）</b> ・撮影した写真をもとに、さまざまな視点で植物の形態を分類する。 ・自分の学校や地区ではどのような植物が生育し、分類できるか予想する。	・進行 ・生徒への支援	・考察の助言 ・質疑応答
5分	<b>■ 振り返り（体験室）</b> ・生徒の感想、疑問点の発表	・進行 ・評価	・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・季節や観察池、どんぐり森周辺の状態によって、生育する植物は変化するため、事前にどのような植物が生育しているか、確認する。
- ・事前にルーペの使い方とスケッチのしかたを学んでおくことで、この場では学びを実践する場とすることができる。
- ・植物の名称が分からないことが予想されるため、google レンズを活用するとよい。

# 1 単元・題材名 「探検！豊田ミステリーツアー – 豊田の地域の特色や歴史を学ぼう –」

## 2 ねらい

- ・博物館と市域にある古い町並みや建物の見学から、昔の人々の暮らしについて学び、当時の人々の願いや工夫に気付き、郷土の歴史や地域への興味・関心を高める。
- ・自分たちの住む学区や市域には、誇れる歴史があることを知る。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・豊田市域に残る史跡の紹介と資料提供
- ・史跡等の見学案内と現地での解説

## 4 学習活動

- ① 人数 150人程度まで
- ② 時間 40～50分（各活動）
- ③ 場所 博物館、市域の史跡など
- ④ 学習活動例



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	<b>■集合、整列、見学の注意</b> ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等 ・グループごとに移動	・進行	・注意事項
50分 活動A	<b>■博物館の展示室での課題</b> ・豊田の産業はどのように変化してきたのか。 ・博物館の木材はどここの木か。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・活動の支援 ・助言
15分	休憩・移動		
50分 活動B	<b>■むかしの家、七州城隅櫓での課題</b> ・むかしの家でみられる生活の知恵は何か。 ・なぜ、拳母城が高台にうつってきたのか。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・活動の支援 ・助言
40分	昼食・休憩		
20分	移動		
40分 活動C	<b>■喜楽亭での課題（※喜楽亭の場合）</b> ・現在の建物と違うところはどこだろうか。	・進行 ・時間調整 ・安全確保	・見学の諸注意 ・活動の支援 ・助言
10分	<b>■終わりの会（喜楽亭）</b> ・生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・進行	・質疑応答

### ⑤ 留意点・備考

- ・博物館や七州城隅櫓に加えて、もう一か所の見学地に訪れて課題に取り組むことができる。見学候補地は右の通り。
- ・学級数に応じて、活動A、B、Cをローテーションして実施する。

### <豊田市内で見学ができるおもな場所>

博物館、民芸館、伊保原飛行場跡、喜楽亭、曾根遺跡、明治用水旧頭首口、百々貯木場、七州城跡、桜城址、寺部城跡、旧松本家長屋門、遊佐家長屋門 など

# 1 単元・題材名 「ミュージアム チャレンジ7 - 7つの謎を解き明かせ! -」

## 2 ねらい

- ・博物館や美術館、挙母の城下町に関連した探究クイズに取り組みながら、豊田の歴史や自然、文化への関心を高める。
- ・仲間と協力しながら問題を解決していく力を育む。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・博物館、美術館、挙母の城下町に関する探究クイズの制作
- ・必要に応じて探究クイズの答えに関する解説

## 4 学習活動

- ① 人数 150人程度まで
- ② 時間 50分（各活動）
- ③ 場所 博物館（展示室など）、美術館（展示室、屋外展示）、挙母の城下町
- ④ 学習活動

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	■ 始めの会（セミナールーム） ・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等	・活動進行	
50分 活動A	■ 博物館で探究クイズをしよう。（博物館） ・博物館の展示や建築などを題材にした探究クイズに取り組む。 ・答え合わせをする。	・活動進行 ・時間調整 ・安全確保 ・答え合わせ	・活動支援 ・ヒントの提示
15分	休憩・移動		
50分 活動B	■ 美術館で探究クイズをしよう。（美術館） ・美術館の展示や建築を題材にした探究クイズに取り組む。 ・答え合わせをする。	・活動進行 ・時間調整 ・安全確保 ・答え合わせ	・活動支援 ・ヒントの提示
50分	移動・昼食		
50分 活動C	■ 挙母の城下町で探究クイズをしよう。（挙母の城下町） ・七州城の隅櫓、挙母城下町に関する探究クイズに取り組む。 ・答え合わせをする。	・活動進行 ・時間調整 ・安全確保 ・答え合わせ	・活動支援 ・ヒントの提示
15分	休憩・移動		
10分	■ 終わりの会（セミナールーム） ・児童生徒の感想、博物館学習スタッフの話	・活動進行の支援 ・評価	・質疑応答

### ⑤ 留意点・備考

- ・学級数に応じて、活動A、B、Cをローテーションして実施する。
- ・城下町の古地図を使ったクイズラリーもある。活動時間は、60分程度。クイズの内容などは応相談。
- ・七州城隅櫓の内部見学を希望する場合は要相談。
- ・挙母の城下町で活動する際、活動や移動における安全対策は、学校が主となって準備をしてください。ただし、立哨ポイントの参考情報などは、博物館から提供することができる。

## 1 教材名 「行動する建築家 坂 茂 -社会のために自分は何ができるか考えよう-」

## 2 ねらい

- ・博物館の設計やそれに関わる人の思いを知る活動を通して、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めようという道徳的心情を育てる。

【観点】 C- (12) 社会参画、公共の精神

## 3 博物館のサポートと連携

- ・パンフレットの提供、坂茂さんのインタビュー動画の提供、見学補助、紙管の実物資料

## 4 学習活動

- ① 人数 100人程度まで
- ② 時間 50分(各活動)
- ③ 場所 セミナールーム、博物館各所
- ④ 学習活動



## 事前指導(各学校で実施)

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
50分 活動A	<p>■「行動する建築家 坂茂」を読み、坂茂さんの建築に対する思いや、どのような活動をしているのかを知る。</p> <p>・坂茂さんの活動を通して、自分が社会のためにできることやしてみたいことを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挙手の指名</li> <li>・発言の板書</li> <li>・記録写真</li> <li>・個別支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット等資料の準備、提供</li> </ul>

## 博物館学習

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
10分	<p>■始めの会(セミナールーム)</p> <p>・講師の紹介、学習課題の確認、諸注意等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整列指示</li> <li>・進行</li> <li>・移動指示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注意事項</li> </ul>
50分 活動B	<p>■博物館の見学</p> <p>・事前学習を振り帰る。</p> <p>・博物館で使われている集成材や紙管に着目しながら見学し、坂茂さんが設計に込めた思いを考える。(美術館との比較も可)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学案内、補助</li> <li>・坂茂さんについての説明</li> </ul>
	休憩・移動		
50分 活動C	<p>■見学を通して、博物館の建築に込められた坂茂さんの思いについて考えたことを話し合う。</p> <p>・見学や資料をもとに、環境や産業の発展に寄与しようとする坂さんの考えをつかむ。</p> <p>・自分が社会のために、できることやしてみたいことをグループで紹介し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行</li> <li>・インタビュー動画を流す</li> <li>・挙手の指名</li> <li>・発言の板書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館の紹介</li> <li>・設計者の紹介</li> </ul>
10分	<p>■終わりの会(セミナールーム)</p> <p>・生徒の感想、博物館学習スタッフの話</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行</li> <li>・評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑応答</li> </ul>

## ⑤ 留意点・備考

- ・活動Aは事前指導として、各学校で行うことを基本とする。指導に必要な資料は博物館から提供する。博物館に関する情報はホームページからも調べられる。
- ・活動Cの感想の記入は、坂茂さんへの手紙の作成などに変更することも可能。

# 1 単元・題材名 「扇の的『平家物語』より - 鎧や武器から当時の戦の様子を探ろう -」

## 2 ねらい

- ・作品の背景にある時代状況を捉え、武士がどのような考えをもっていたかを与一や源平の行動と結び付けて考える。
- ・鎧（レプリカ）や当時の武器の観察を通して、武士の戦い方について学び、作品の情景や登場人物の心情を深める。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・鎧（レプリカ）の着用方法やつくりについての説明、体験のサポート
- ・武士の生活や生き方についての解説
- ・武士たちが使っていた武器や当時の戦についての解説



## 4 学習活動

- ① 人数 60人程度まで
- ② 時間 50分
- ③ 場所 セミナールーム
- ④ 学習活動

時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
5分	<b>■ 学習課題の確認</b> 「鎧や武器から当時の戦の様子を探り、平家物語の作品の理解を深めよう」	・ 進行 ・ 学習課題提示	
20分	<b>■ 鎧の着用や武器の観察を通して、その特徴を発表する。</b> ・ 重さ ・ 素材 ・ 身につけた感想など <b>■ 鎧や武器について学芸員の説明を聞く。</b> ・ 敵の武器から身を守る仕組み ・ 大将と歩兵との装備の違い	・ 生徒の監督 ・ 個への支援 ・ 記録写真 ・ 挙手の指名 ・ 発言の板書	・ 鎧や武器について 使い方や着用方法の説明 ・ 着用の支援
15分	<b>■ 当時の戦の資料などから実際の戦いの様子を知る。合わせて平家（貴族）と源氏（武士）の考え方や暮らしぶりの違いについても説明を受ける。</b>	・ 生徒の監督 ・ 個への支援 ・ 記録写真 ・ 挙手の指名	・ 適宜説明
10分	<b>■ 源氏と平家の違いについてまとめる。</b> ・ 与一が命をかけてまで挑んだのはどんな思いからだろう。 ・ 平家が腕前を称賛し、讃えたのはどんな思いからだろう。	・ 挙手の指名 ・ 個への支援 ・ 評価	・ 質疑応答

### ⑤ 留意点・備考

- ・大鎧（レプリカ）は貸出可能（貸し出しの場合は着用方法の説明を受ける）。
- ・大鎧の兜を順番に身につける間に、その他の部品を身につけたり、感想を書いたりするようにする。
- ・事前に『平家物語』を読んでおき、どのような場面があったのかを確認しておく。

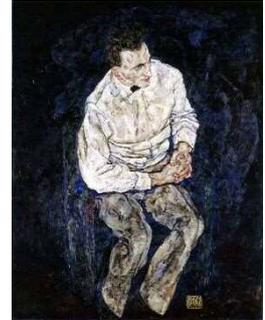
## 1 題材名 「人物を見つめて -エゴン・シーレ- 」

### 2 ねらい

- ・顔や体の向き、ポーズ、構図、人物・背景の色彩、線の表情、陰影のつけ方等の造形的な要素を手掛かりに、人物の内面を想像し、作品の主題やイメージを捉え、作品のよさを味わう。
- ・美術館へ行き、実物の美術作品を観るよさを味わい、新しい発見や見方に出会う。

### 3 美術館のサポートと連携

- ・エゴン・シーレ《カール・グリュンヴァルトの像》の対話型鑑賞
- ・必要に応じて、他の作品等の自由見学での解説
- ・豊田市美術館・高橋節郎館見学案内



### 4 学習活動

- ① 人数 80人程度まで
- ② 時間 120分
- ③ 場所 常設展会場、高橋節郎館
- ④ 学習活動

時間	学習内容	先生	美術館学習スタッフ
15分	<b>■事前指導（見学の注意事項）</b> <b>■学習課題の確認</b> 「顔や体の向き、ポーズ、構図、人物・背景の色彩、線の表情、陰影のつけ方等の造形的な要素を手掛かりに、人物の内面を想像し、作品の主題やイメージを捉え、作品のよさを味わおう」	・整列指示 ・進行 ・学習課題提示 ・移動指示	・美術館紹介、解説 ・注意事項
30分 活動A	<b>■エゴン・シーレ《カール・グリュンヴァルトの像》の対話型鑑賞をする。</b> ・実物作品を観て感じたこと対話型鑑賞で見つけたことをワークシートに書き込む。	・生徒の監督 ・拳手の指名 ・安全指導 ・移動指示	・誘導 ・対話型鑑賞
30分 活動B	<b>■ココシュカ、クリムト、岸田劉生等の人物画やその他の作品を自由に鑑賞する。</b>		・説明 ・個別に解説
30分 活動C	<b>■高橋節郎館で漆作品を鑑賞する。</b> <b>■館外で、建築物や彫刻等の鑑賞をする。</b>		・説明 ・個別に解説
15分	<b>■振り返り</b> ・生徒の感想や質問の発表 ・美術館学習スタッフの話	・進行 ・拳手の指名 ・評価	・質疑応答

### ⑤ 留意点・備考

- ・生徒数によって、活動Aと活動B、活動Cに分かれて学習を進める。
- ・事前に、アートカードや学習用タブレット等で様々な人物画を観て、人物を描くことについての意味を考える。事前指導で作品ガイドボランティアの派遣も可能。
- ・注意事項（走らない・大声で話さない・美術品には触らない等）を守って見学するように、指示を徹底する。
- ・事後、人物を描く題材に生かす。
- ・可能であれば、館内・施設内の作品をタブレットで撮影後、持ち寄って鑑賞会をする。

## 1 題材名 「日本の美意識 –高橋節郎館・茶室で美意識を学ぶ–」

## 2 ねらい

- ・漆工芸の魅力や茶文化に触れ、日本の風土で育まれた美意識や自然の形体・材料を生かした美術について感じたことを広げたり深めたりする。

## 3 美術館のサポートと連携

- ・高橋節郎館見学案内と説明
- ・茶室童子苑の見学と説明（利用案内）
- ・豊田市美術館見学案内

## 4 学習活動

- ① 人数 80人程度まで
- ② 時間 125分
- ③ 場所 高橋節郎館、美術館内常設展、美術館屋外展示、茶室童子苑
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	美術館学習スタッフ
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■事前指導（見学の注意事項）</li> <li>■学習課題の確認</li> <li>「日本の美意識を味わおう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整列指示、進行</li> <li>・学習課題提示</li> <li>・挙手の指名</li> <li>・移動指示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館紹介、解説</li> <li>・注意事項</li> </ul>
30分 活動A	<ul style="list-style-type: none"> <li>■高橋節郎館</li> <li>・郷土の自然美を描いた高橋節郎の作品を活用して対話型鑑賞を行い、作品をじっくり味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の監督</li> <li>・挙手の指名</li> <li>・安全指導</li> <li>・記録写真</li> <li>・移動指示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誘導</li> <li>・対話型鑑賞</li> <li>・個別に開設</li> </ul>
40分 活動B	<ul style="list-style-type: none"> <li>■豊田市美術館内常設展</li> <li>・自由鑑賞</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明</li> <li>・個別に解説</li> </ul>
25分 活動C	<ul style="list-style-type: none"> <li>■茶室童子苑</li> <li>・見学 【抹茶体験（茶菓子付）も可能】</li> <li>・陶磁器、菓子などの茶文化に触れ、日本の美意識を味わう。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に解説（・お茶出し）</li> </ul>
15分 活動D	<ul style="list-style-type: none"> <li>■豊田市美術館屋外展示・講堂</li> <li>・自由鑑賞、ワークシートの整理</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・PC操作</li> <li>・解説</li> </ul>
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■振り返り</li> <li>・生徒の感想や質問の発表</li> <li>・美術館学習スタッフの話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挙手の指名</li> <li>・評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑応答</li> </ul>

## ⑤ 留意点・備考

- ・抹茶体験 有料450円/1人 要予約
- ・生徒数によって、活動A～活動Dに分かれて学習を進める。
- ・社会科、国語科、家庭科、道徳科との教科横断的な学習として年間計画に位置付けるとよい。
- ・事前に題材との出会いとして、着物や風呂敷、お椀・箸・盆・食器等、自然物の形体を装飾に取り入れたり、風土に適した材料を生かしたりして日本人が生活に取り入れてきた美と出合わせる。また、高橋節郎の制作風景のビデオ鑑賞を行い、漆工芸の制作過程を知り、高橋節郎館見学への関心意欲を高める。
- ・事後、漆工芸制作や焼き物制作、着物の柄デザイン、和菓子作り等の題材につなげ、日本の美に対する考えを広げたり深めたりする。
- ・事前指導で作品ガイドボランティアの派遣も可能。
- ・高橋節郎館は、令和6年度は改修工事のため利用することができません。

# 1 単元・題材名 「身近な生物の観察 – 単細胞生物と多細胞生物を観察しよう–」

## 2 ねらい

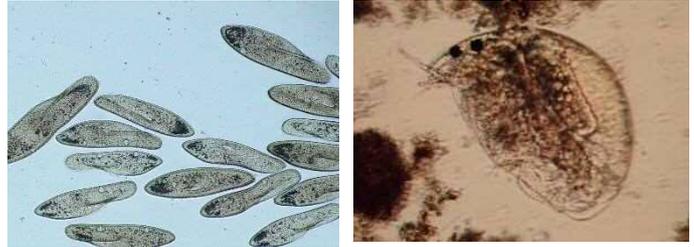
- ・観察池周辺に生息する微小な生物（単細胞生物や多細胞生物）を採集・観察することで、興味・関心を高める。
- ・身近に生息する微小な生物の種類や特徴について学ぶ。

## 3 博物館のサポートと連携

- ・観察池周辺での微小な生物の採集についての説明
- ・微小な生物の種類や特徴についての助言

## 4 学習活動

- ① 人数 40人程度まで
- ② 時間 70分
- ③ 場所 観察池周辺、体験室
- ④ 学習活動



時間	学習内容	先生	博物館学習スタッフ
5分	■学習課題を確認、学芸員の説明を聞く。 (観察池周辺) ・生息している生物の種類 ・観察池周辺内の水の採集方法 ・微小な生物のいそうな場所	・進行 ・学習課題の提示	・博物館学習スタッフによる説明
25分	■観察池周辺で微小な生物を採集する。	・生徒の監督	・採集活動での支援 ・質疑応答
5分	移動		
25分	■採集した生物を顕微鏡で観察する。 (体験室) ・単細胞生物 ・多細胞生物 ・動物と植物の違い ■観察した微小な生物を共有する。	・進行	・観察の助言 ・質疑応答
10分	■振り返り ・生徒の感想、疑問点の発表	・進行 ・評価	・質疑応答

## ⑤ 留意点・備考

- ・観察池周辺の状態によって、生息する動植物は変化すると考えられる。そのため、水中の微小な生物が採集できない場合もある。
- ・学習の後、自分の住んでいる地域で、微小な生物を観察ができるように、採集や観察の仕方を学ぶことができる。